

流域の人々と歩む月刊誌

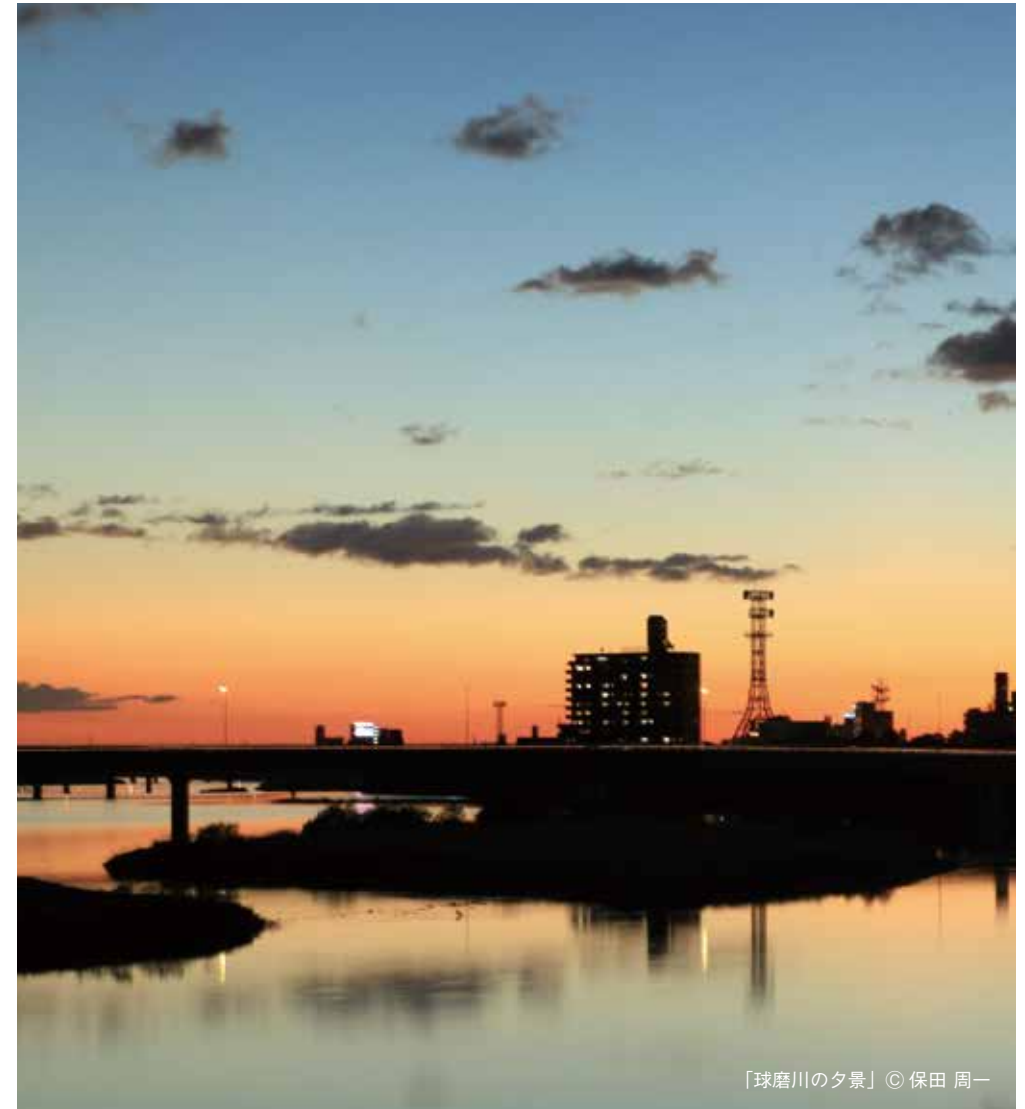
くまがわ春秋

2016

6

第3号

特集「熊本地震」記憶と記録の糸を編む



「球磨川の夕景」© 保田 周一

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

織月



織月酒造株式会社
宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2015



飲酒は20歳を過ぎた後、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

織月酒造株式会社
http://www.sengetsu.co.jp/
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

雑誌 81779-06



4910817790666
00500

月刊 くまがわ春秋 第3号 2016年6月15日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田 675-3

TEL・FAX 0966-22-7601

http://www.hiroyoshi.co.jp/

info@hiroyoshi.co.jp

定価 540円

本体 500円

今月の一言『文読む月日』 (レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳) より

我々は、三つの道によって叡智に達することができる。第一は思索の道で、これは最も高尚な道である。第二は模倣の道で、これは最も安易な道である。第三は経験の道で、これは最も苦しい道である。(孔子)

表紙

「球磨川の夕景」

八代市新萩原橋から撮る

(撮影/保田周。医師、写真歴12年。八代市鏡町)



今月の詩 ③

人吉球磨児童生徒文詩集「やまざり」から

第34号 (2006年3月発行) 選・作文の会

いもほり

中原小二 ほりえ あゆむ

つるを
ぬいたら
がばつと
いもが
とびだしてくる。
もぐらみたい

【評】つるをぬくと、たぐさんの芋がつるについている。それがまるでモグラのような形をしていたのであろう。「とび出してくる」という言葉から、芋を生きているかいいモグラと捉え、表現しているところがおもしろい。

黄色のいちよう

湯前小二 東 実咲

黄色くて
ひらひらと落ちてきた。
わたしも
黄色のふくをきて
いちようのところにいきたい。
そして
ひらひらおちたい。

【評】風に吹かれてひらひら舞い落ちるイチヨウの葉を、生きて動いているように感じたようである。「わたしも」「おちたい」の言葉から、そのイチヨウの踊りに自分も加わり、楽しみたいという気持ちが伝わってくる。

第3号目次

最近のおもな出来事／36	ひろしの「げっかん・ぎひよう」／36
ふるさと遊び図鑑②松舟博満／37	東儀一郎「なつかし昭和の写真館③」／38
球磨川大好き!「源流水リレー③」松田浩典／40	句をいただく①「ウルメイワシの梅煮」宮内祥子／45
シリーズほいくのなかで描いた絵③「渡保育園」／44	球磨川の駅・ものがたり③「坂本駅」松本晋一／46
シリーズ「水と生きる人①」横谷俊治さん／52	柳人があじわう漱石俳句③いわさき楊子／53
定吉が行く③「職務質問」鳥飼博／54	記憶の落ち穂「良輔筆 私の顔」坂本福治／57

「ふり返って前へ一歩」須藤久仁恵／3

「熊本地震から日奈久断層を考える」つる詳子／8

「扶けあうしかない」赤木光代／12

「被災20日間」加登住 道／18

「西原村農業復興支援に参加して」佐伯勝利／21

「沈むベツト」宮原信晃／22

「明治熊本地震」と小藤文次郎」木崎康弘／24

「震災を詠むということ」永田満徳／32

「肥薩線から消えたくまがわ号」に感謝」福井 弘／58	「天井裏の生活者」久馬 凌／60
外来語から学ぶ英単語(3)……藤原 宏／63	「田舎」とはなにかを考えてみた」亀田 洋／64
郡築干拓の農業③磯田 毅／66	方言を味わう③前田一洋／68
くまがわエッセー「ストレッツ」武井京子／73	「くまがわ狂句」村上鬼拳／72
流域探訪「熊太郎神社」氏川 平／74	上杉芳野の「あがつ段」②「出会いは宝」／76
マグナ・カルタ④ 鶴上寛治／78	お寺と戦争③ 山本隆英／81
鶴鶴短歌会／83	「柴神さんの継承」林 俊二／84
小山勝清生誕二〇〇年特集③／86	いもご／89
昭和二十三年に父が記した遺稿③片岡和紘／90	字図で見る球磨の地名③ 上村重次／92
話題を追って／97	東京オリンピック③「民宿法」苅田吉富／98
「たぐさんの出来事の中から」本村登代美／100	読者の声／102
情報ピックアップ／103	インフォメーション／104
編集後記／104	

※緊急に「熊本地震」の特集を組んだため、一部の連載をお休みいたしました。

台風、大雪、地震、そして梅雨

この1年は記録に残る。

昨年8月25日、台風が流域を襲い農産物に多大な被害を与えたほか、肥薩線は1ヶ月にわたり運休をせざるをえなくなった。1月24日には大雪を経験した。数日にわたり外出できないほど雪が降った。沖縄でも雪が降るなど127年ぶりの大雪であった。4月14日からは熊本地震だ。地震・余震は現在もつづいて終息していない。そして、梅雨に入った。土砂災害の不安が頭をよぎる。復興どころか、さらに被害が拡大するのではないかと思いがちになる。台風、大雪、地震。これらの自然のふるまいを記録することには意味がある。それらの発生の予測度を向上させるという「科学主義的利益の視点」もあろうけども、自然の一部として人間はどのようにふるまうのかを伝えるところにも価値がある。自然に対し人間はまちがいに無力量であるけれども、それにもかかわらず、お互いに支えあつて、どうにか生きてのびていく力を身につけているのも確かなようで、人間つて捨てたもんじゃないと改めて知る。それを確認するために熊本地震を特集した。

少し考えれば分かることだが、梅雨は決して悪者ではない。農家にとつては、悪者どころか、それなしには生きていけない宝物である。田植えをすませた稲は梅雨の水分で大きく育つ。野菜・果物も同じだ。農家だけでなく球磨川下りなども梅雨なしに考えられない。球磨川流域にかぎらず、日本人はだれでも梅雨を前提に生活してきた。梅雨を含む自然に、いつも、抱かれて生きてきた。どのような梅雨になるのかは予想できないけれども、梅雨に感謝しつつ、防災・減災に努めるほかない。人間とはそういう存在ではなからうか。

(編集部)

特集

「熊本地震」記憶と記録の糸を編む

ふり返って前へ一歩

須藤久仁恵

昨日と同じ暮らしが今日も終わり、明日も続くと思っていた夜の。

ヨガ教室から帰宅。半身浴をして、後はゆっくり寝るだけと思いつつ階段を駆け上がった瞬間。いきなりドーンと突き上げられ、建物が、足元が大きく揺れた。立ってられない。階段の手すりを握り、その場にしゃがみこむ。上階からは「ガシャン、ガシャン」と次々と物の壊れる音。

揺れがおさまり、そろそろ立ち上がる。腰が抜け足はガクガク。台所のドアを開けると夫が「冷蔵庫から中身が飛び出た。食器棚から食器が飛び出て割れた。自分はテーブルの下に逃げ込んだ。どこに居た？」と一気に語り掛ける。台所は混乱の極み状態。

「片付けなくちゃ、どこから手を付けよう」。まさに思考停止状態である。目の前の割れた食器だけしか見えない。しばらくすると「おばちゃん、逃げんと危ないよ」と息子の友達が飛び込んで、漸く「逃げる」という選択が頭に浮かんできた。当然、緊急持ち出しリュックなんて用意してない。着の身着のままで逃げ出す。駐車場には住民があちこちで立ちすくんでいた。

余震が続く。何時間たったのか覚えてないが、寒さで震

えていることに気が付いた。周りから「動物園からライオンが逃げ出したって」「嘉島の大型スーパ―が燃えているってよ」という声が聞こえる。すでにこの時点でデマが飛び交っていたのだ。何時間かして揺れがおさまってから部屋に一旦戻り、毛布と水と財布などを持ち出しこの夜は車中泊。しかし余震が続き一睡もできず。

夜が明けて部屋に戻り、割れた食器だけでも片づけようと身体を動かせる。その後、水前寺駅近くにある夫の事務



事務所の様子（15日撮影）

所へ様子を見に行く。ここも食器棚は倒れ、本棚も傾き、ファイルは飛び散り食器もぐちゃぐちゃ。大事なパソコンが生きていたからほっとした。

15日は自宅、事務所の割れた食器や本やファイルなどを出来る範囲で片づける。

お蔭さまで、この時点までライフラインは生きていたので普段通りの夕ご飯を済ませ、「昨夜は怖かったねえ。今夜は早く寝よう」と10時前に就寝。今夜はゆつくり寝よう、もう昨日のようなことはないはず。多くの人が同じ思いで夜を過ごしたに違いない。



16日午前1時25分。ぐっすり眠りこんでいる身体にドーンという音が飛び込んできた。

地震だつ。大きいつ。電気が消えた。すべてを同時に体感し、布団を

かぶり押入れの隅に逃げ込んだ。窓と建物がガタガタガタと揺れる。揺れる。床が抜ける！ 片づけた食器が、鍋釜が飛び散り割れる音が響く。

真つ暗闇のなか、「久仁恵さん どこにいる〜」と夫の声が聞こえる。「ここに居る〜」としか言えない。携帯電話の小さな明かりで足元を照らし、テーブルを乗り越え玄関へ。前日の教訓を生かし、毛布をかぶり上着をはおり、財布を握り逃げ出した。

一人暮らしの住民、足元の弱い高齢者を皆でかばいつつ、建物の外へ逃げ出す。

14日をはるかに超える大地震だった。14日以上住民が集まり、不安な表情で肩を寄せ合う。携帯電話の「地震です」「地震です」の緊急地震速報が余震のたびに響いてくる。揺れのあとに警報が鳴り響くつて、何なのよ。「今揺れちよ



横ずれした洋服箆筒（16日撮影）



落下した食器の数々（16日撮影）

るやんか」状態。この夜、震度5強が何度続いただろう。14日は徹夜だったので、午前3時過ぎに車の中でシートを倒して寝ようと思うが微睡むだけ。夜が明け部屋に戻ると、凄まじいとしか言いようがない光景。びわ酒やラッキョウ、トマトケチャップなどの瓶詰の保存食品が割れ飛び散り、どろどろの内容物が広がっている。電気炊飯器や電子レン



水前寺のごみ捨て場（4月25日撮影）

そして今。余震もかなりおさまり周囲を見渡す余裕も生まれた。すると記憶が飛んでいることに気が付いたのだ。赤水に応援で来ていた息子が20日に二時間半ほど立ち寄ったのに、私は息子が何時間留まったか覚えてない。怖かった車中泊についても、夫は「車中泊は三日」といい、私は「二日だけ」と思い込んでいた。いろんな記憶が抜け落ちていく。記憶が飛んだということは、心の防衛反応か？

食べて片づけて寝て…、とにかく一日を無事に終わらせる、ただ生きていくことだけで精一杯だったんだろう。表面では落ち着いて冷静に見える（であろう）私だが、当時の日記を読み返せば行間から「怖いよ」、誰か助けて」と叫ぶ声が溢れていることに気付くのだ。精神的な支援の大切さを感じる。「きついよ、怖いよ」と吐き出せる環境、一人で溜め込まない、無理して頑張らんでもいいよという緩やかな関係性を望む。

飛んで行った記憶のかけらや当時の思いを集めて再構築しよう。このまま流したら、地震に遭った甲斐がないじゃないか。

玄関には緊急持ち出し用品を入れたリュックを今も置いている。何かあれば即これを担いで逃げ出すのだ。二度の地震は緊急時にどう動けばよいかを教えてくれた。加えて、これまでの日々が如何に無駄なものに囲まれていたかも。命より大事なものは無いという当たり前の事実を再確認し、シンプルに生きよと教え諭してくれた熊本地震と個人的には思っている。ありがとう。

【すどう・くにえ。行政書士事務所勤務、熊本市】

ジも転げ落ちている。あつちに鍋、こつちに食器のかけら…。居間に目をやれば、洋服ダンスが50センチ近く横移動、食器棚も押されて横移動。もちろん中身は飛び出ている。夫の仕事部屋もパソコンが倒れ、本棚が倒れ書類が飛び、まさに足の踏み場もない状態。

「昨日片づけたばかりなのに…」と思いつつ、とりあえず通路を確保する。床に散らばっていた玄米をかき集めて、漬物と味噌と水で朝食。ガスが消え、電気も消えていたが、水は貯水槽の分で断水することはなかった。15日をなぞったような片付け仕事が16日も繰り返し返される。

16日の午後には電気が復旧、夕方1時間以上並んでガソリンを満タンにする。

この夜も車中泊。ガスは復旧の見通しが立たない。捨てるつもりだったガスコンロとガスボンベを取り出してお湯を沸かし、久々に温かいお茶をいただく。温かな飲み物が凍えた身体と心を温めて、がちがちの緊張を緩めてくれた。

17日も18日も余震に怯えながら事務所と自宅の片付け。怖いよ、必死で耐える。

19日。ガスが止まって四日目。電気釜で麦ごはんを炊き、

漬物とガスコンロで作った味噌汁で食事。床が揺れているのか、私めまいを起こしているのかわからない。まるで車酔いの状態だ。

20日。倉敷に住む息子が赤水の事業所応援で18日より来県しており、所用のついでに我が家に立ち寄る。

21日。震度3や震度2レベルの揺れが何度も来る。そのたびに心臓がギョツと鷲掴みされる感じ。県外の親せきから「こつちに逃げといて」と電話が何本も入る。22日は8日ぶりに銭湯で入浴。その後も余震が続く、夜ごとゆらゆらと同時に飛び起きる。熟睡できてないのだろう。しかし贅沢は言えない。水も電気も来てるじゃないか。温かなご飯があり、自分の布団で眠れる。何の文句があるだろう。贅沢を言えば罰が当たると自分に言い聞かせる。

28日。ガス復旧。久々に火力の強いガスで調理。食後、ゆつくり入浴しようと思うが、ふる釜が洗い場に乗り上げて使えない。でも、シャワーは使える。

29日から実家のある大分で5月5日まで過ごす。立野の崩落で57号線が不通なので、二重峠経由で走る。阿蘇外輪山の崩落は凄まじい。

熊本地震から 日奈久断層を考える

つる 詳子

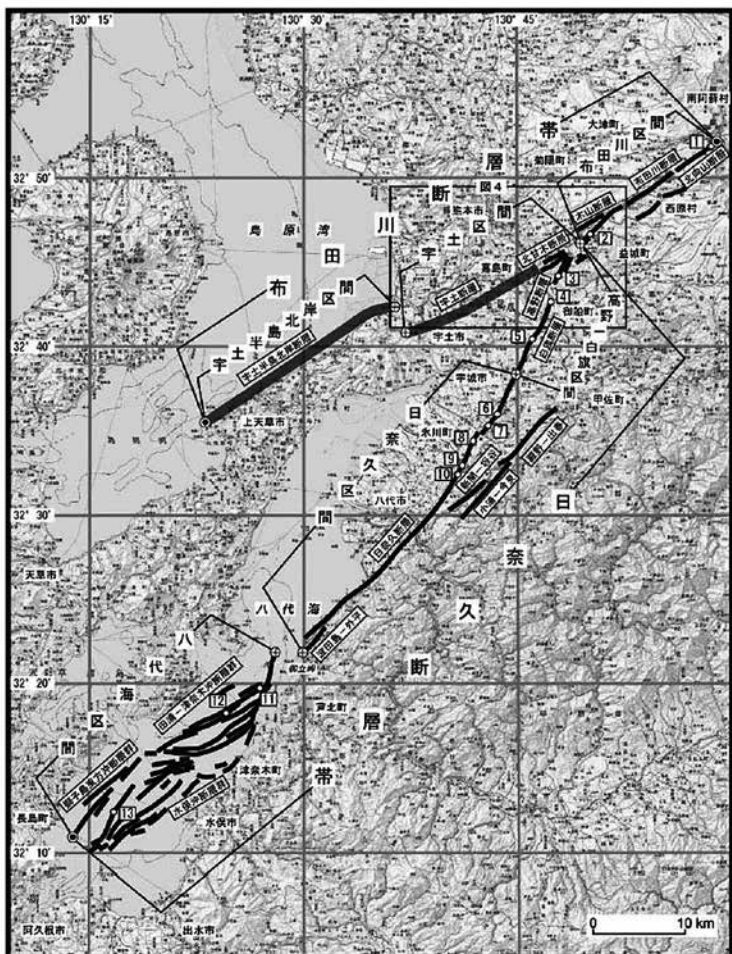
日奈久断層の上に住んでいることは自覚していた。また、ここ数年、日奈久断層で30年以内に地震が起こる確率が、全国中でも高いことも認識していた。最近、文部科学省が公表している主要断層の長期評価でも、全国187断層のうち、30年以内の発生確率が最も高いのが、日奈久断層の一番南の区間・八代海区間で最大16%と全国一であった。それでも、気持ちの中では、少なくとも私が生きている間には起こりえない、遠い未来のことという感じだった。なので、防災グッズも非常食も常備していなければ、家の中は耐震対策も講じていなかった。幸い、2度の大きな地震で、我が家に殆ど被害はなかったものの、自分の甘さを思い知るに十分だった。そして、熊本市内や益城町に住む息子、多

くの友人・知人の現状を知るにつけ、他人事ではなくなり、奔走の日々となると同時に、日奈久断層を正面から考える機会となった。

地学や地質は専門ではなく、どちらかというと疎い方ではあるが、いろんな資料や文献を読み漁った。すでに、新聞・テレビでも多くが報道されているが、備忘録として、少しまとめてみた。

14日の前震は日奈久断層の北部を震源地とするものだった。それが引き金となり、連動して布田川断層で起きたのが、16日の本震であり、以後、布田川・日奈久断層を東に西にと震源地を変え、前例のない多くの余震を引き起こしている。

布田川断層と日奈久断層は、益城町の赤井火砕丘で区切られている。そして日奈久断層は、3つの区間に区別され、高野―白旗区間（益城町木山付近から宇城市豊野町山崎付近までの約16km）、日奈久区間（宇城市豊野町山崎から芦北町の御立岬付近までの約40km）、八代海区間（御立岬付近から八代海南部までの約30km）と、全長81kmに及ぶ断



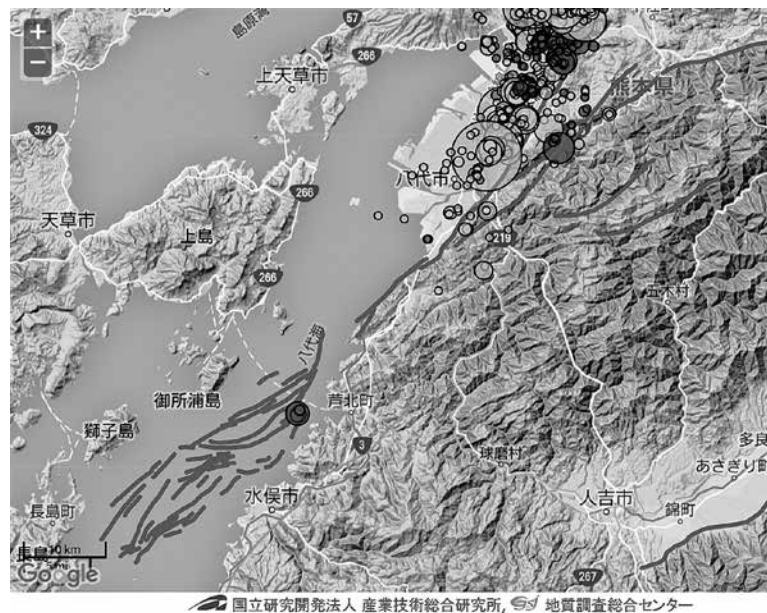
図① 布田川断層帯・日奈久断層帯：地震調査研究推進本部地震本部「布田川断層帯・日奈久断層帯」引用

な断層や、横切る大きな白杵―八代構造線が存在がある。今回、余震が報告され、震源地が熊本地方と報道されるものの中には、小川、氷川、八代付近を震源地とするものも多かった。八代を震源とする19日の17時52分のマグニチュード5.5、震度5強、同日20時47分、マグニチュード4.9、震度5弱を始め、多くの地震が起こっているが、多くの報道が、今回の地震の多くは高野―白旗区間が多いので、日奈久区間と八代区間には、まだ大きなエネルギーがたまっていると繰り返し伝えた。余震は少なくなってきたが、このまま治まってくれるのかどうか、前例がない地震の起こり方に専門家もなかなか収束宣言を出せないでいる。

層であり、およそ八代平野の山麓の東裾を走り、日奈久から南は八代海に潜っている。南東側の隆起を伴う右横ずれ断層である（図①参照）。そして近くには、並行する小

な断層や、横切る大きな白杵―八代構造線が存在がある。今回、余震が報告され、震源地が熊本地方と報道されるものの中には、小川、氷川、八代付近を震源地とするものも多かった。八代を震源とする19日の17時52分のマグニチュード5.5、震度5強、同日20時47分、マグニチュード4.9、震度5弱を始め、多くの地震が起こっているが、多くの報道が、今回の地震の多くは高野―白旗区間が多いので、日奈久区間と八代区間には、まだ大きなエネルギーがたまっていると繰り返し伝えた。余震は少なくなってきたが、このまま治まってくれるのかどうか、前例がない地震の起こり方に専門家もなかなか収束宣言を出せないでいる。

実際、芦北を除くと、八代から南の区間を震源地とする地震が少ないのは却って不気味でもある（図②参照）。



図② 2016年熊本地震の震源分布図（4月3日～5月18日）：気象庁の一元化検測値を用いて、産業が再決定したものを引用。○の濃淡は震源地の深さを示す

過去の八代における地震としては、麦島城及び城下町が一瞬にして崩壊したという1619年（元和5年）3月17日のマグニチュード6.0の地震が良く知られている。加藤家ゆかりの浄信寺に残る1682年の記録には、「3月17日、大地、震動す。山鳴り、谷応え、潮翻り、水湧き、城郭崩壊、基階頽毀す」と記されているとのこと。また、ずっと遡ると、744年（天平16年）6月30日にもマグニチュード7.0の地震・津波が起こり、山崩れ280カ所死者1520人と八代・天草・芦北に大きな被害をもたらしたという記録がある。その後、800年ほどの間を置いて、1534年から1563年までの間に、規模は不明だが断続して9回の八代を震源とする地震が続いている。更に1852年にも八代を震源とする地震・津波が発生している。その間にも県内で震度6程度の地震が数回あるので、八代でも大きく揺れたことと思われる。1931年（昭和6年）には八代海地震と称されるマグニチュード5.5～5.9の地震が立て続けに3回起こっているが、これは天草を震源とするものである。

その後はあまり八代を震源とする大きな地震は起こって

ないためか、八代では地震は起こらないという錯覚を起したのかもしれない。日奈久断層という大きな活断層を抱えているのである。

そもそも、九州は阿蘇を境に、遠い未来二つに分かれるというのは、否定できない事実である。また、日本列島はこれまで言われてきた、4つのプレートからなるという単純なものではなく、もっと複雑な複数のプレートからなり、複雑な動きをしているようだ。西村卓也准教授（京都大学防災研究所）がGPSを使って地盤の位置の変動を精密に測定した結果によると、南海トラフから西にある西日本は、一枚のプレートの上に乗っかっていると思われるが、10程の複数のブロックに分かれているという。九州の地盤の動く方向を測定すると、九州南部は南、大分は西へ、長崎佐賀は南東へ、大きく動いており、その境目で多くの地震が発生してきたという（4月6日放送、NHKスペシャル「巨大地震」日本に迫る脅威 地震列島 見えてきた新たなリスク）。

こうなると、もはや私たちに逃げ場はない。地震予知は専門家にも不可能と言われるが、科学技術の進歩である程

度の予測はできるが、いつ来てもいいと覚悟を決め、十分な備えをして、後は天に任せるしかない。

今回、我が家では地震前に地下水がものすごく濁り、水温も高くなった。40年間で初めてのことである。また、昼間にダンゴムシが活発に動き回り、ミミズも這い出してきた。

更に、今回の地震で、ネコを飼っていた多くの人から「ネコが逃げた」「家に入ろうとしない」と聞いた。私たち人間は天地の変化を読み取る能力を失っているかもしれないが、動物は何かを感じているだろうと思う。

例年通り、冷たきれいな水に戻った水道水を使うにつけ、



八代市内から見た日奈久断層（筆者撮影）

せめて、こういう自然の変化を読みとることで、地震を予測できればと思う、今日この頃である。

【つる・しょうこ。環境カウンセラー、八代市】

※参考資料

- ・産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイト…九州地方の活断層と震央分布、活断層ベース
- ・九州災害履歴情報データベース…一般社団法人九州地域づくり協会
- ・八代市地域防災計画「地震・津波災害防対策編」
- ・沿岸海域における活断層調査…布田川―日奈久断層帯／中部・南西部（海域部）成果報告書…独立行政法人産業技術総合研究所、財団法人地域地盤環境研究所、学校法人東海大学、平成23年5月
- ・古地震研究における自然資料と歴史資料の関わり（地震予知への貢献）…松田時彦、1999年

扶けあうしかない

赤木光代

5軒に1軒の割合でかけられている。屋根瓦が飛んで、ひとまず雨漏りを防ぐためである。工事を業者に頼んでも来てくれないという。このあたりでは、家屋の倒壊はどうやらまぬがれている。

住まいは熊本市の北東部、市と郡部の境界に近い。市中心部の熊本城から大分方面に向かう参勤交代の道である、大津街道と呼ばれる幹線道路沿いに、1960年代、県内最大の団地が計画された。整然と区画された敷地に、戸建てと高層・中層の集合住宅が建ち並ぶ。隣接する菊陽町と合志市の団地と接し、生活圈を同じくする。豊肥線の三駅先の武蔵塚駅の近くに私宅がある。

4月14日、熊本市中央区大江の娘の家に夕食づくりに行き（娘夫婦が共稼ぎのため、週に1度そうしている）、帰宅するため最寄りのJR水前寺駅まで娘に車で送ってもらっていた。

その日、夕食の後片付けをすませると、午後9時をまわっていた。水前寺駅ではあまり待たされこともなく、ほぼ定刻に2両編成の列車は出発した。列車が動き始めてから5秒もしないうち、はげしく車両が揺れた。そしてすぐに停まった。

- ・布田川断層・日奈久断層及び臼杵―八代構造線の観察…田口清行、2004年
- ・布田川断層帯・日奈久断層帯の評価…地震調査研究推進本部地震調査委員会、平成25年2月
- ・日奈久断層の第四紀後期における断層運動…千田昇
- ・布田川・日奈久断層帯海域部におけるピストンコア調査…井上直人他、2011年
- ・九州地域の活断層の長期評価（第二版）で新たに評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）…地震調査研究推進本部事務局、2013年
- ・熊本地震・緊急報告会資料…日本学術会議、2016年5月2日
- ・平成28年（2016年）熊本地震＊の評価…地震調査研究推進本部地震調査委員会、2016年5月13日
- ・「平成28年（2016年）熊本地震」について（第7報）…気象庁報道発表資料、2016年4月16日
- ・熊本県の地震活動の特徴…地震調査研究推進本部 地震本部
- ・布田川断層帯・日奈久断層帯…地震調査研究推進本部 地震本部

経験したことのない揺れだった。家の損壊は、玄関まわりとトイレの壁のタイルが数枚剥げ落ちるだけでした。が、家の中は本や飾り棚から落ちた物が、ひと月半経った今でも片付かないでいる。余震が続くので、本格的な整理ができないでいる。近隣の家では、屋根にブルーシートが4、

同じ車両に立って乗っていた若い男性は、床の上で泳ぐように這った。私は座っていたが、一瞬脱線かと身構えた。揺れが収まって2分ほどして、停車位置がまだ駅のプラットフォームにあり、駅員らしい人が外から運転士に何か言い、車両の中に入って来て、今度は乗客に向かって言った。

「地震です。九州のJRの全部が停まっています。すぐに降りて、駅から離れてください」。

全部が停まっているなんて、情報が早いなと思って、あることを思い出していた。高校の友人の父親が国鉄（当時）に勤めており、鉄道電話というものがあると聞いたことがあった。日本電信電話公社（NTTの前身）とは別の、独自の通信線をもっていると聞いた。

乗客はぞろぞろと降りて、階段を上り、線路をまたぐ通路を通って、2階の改札口に向かった。改札口には数名の駅員がおり、一刻も早く乗客を外に出したがっていた。改札もしなかった。

水前寺駅は、数年前改造し、以前からある南口と、改造後できた北口がある。北口方面にはJRの上客である生徒や学生が通う高校・大学が多い。それまで近くの踏切まで

迂回しなければならなかったが、しなくてもよくなった。

私は北口に出た。出口のすぐそばは公園で、公園を囲むように住宅地がある。降りて来た乗客の何人かは、公園にたむろしていた。携帯電話で、娘に迎えに来るように連絡した。

娘はいつまでも来ない。いま思うと、娘の家も衝撃的だったのだろう。5分もかからないはずなのに、30分以上は待った。

その間、「熊高正門通り」とバス停名にある通りと、駅の北口からの道路の交差点で待った。夜がふけていた。

そのうち、周囲にいた人たちが、熊高（県立熊本高校）が避難所になっているそうですよと言いながら、あたりの住宅から出て来た人たちも加わって、熊高の正門の方へ向かって行った。その情報も不確かかもしれないが、確かめるすべもなくそろそろと歩いて行った。

「避難所」という言葉を聞いたとき、ドキッとした。緊急事態であることを否応なくみとめた。その夜は娘宅に泊まり、あくる15日に帰宅した。

家の中は、本棚の本や、飾り棚の人形や置物、台所の収納棚の台所用品などが床に投げ出され、足の踏み場もないほどに重なり散らばっていた。ひとまず割れたガラスを片

所まで来てブレーカーを落としてくれた。

奥さんは体育館に着くと、持ってきたシートをひろげ、「いっしょにこの上で寝ましょう」と言ってくれた。

避難所となっている体育館には、すでに十数家族の人たちが避難してきていた。グラウンドには、この時点で10数台の車が停まっていた。後日見た最多の台数は、50台を超えていたかと思う。

その夜、日付も16日が変わって間もないころ、頑丈な筋交いのある体育館なのに、全体が壊れるのではないかと思うくらいの激しい揺れが襲った。音もすごかった。後日、気象庁が「本震」といった揺れであった。奥さんが手を握ってくれた。前々日、水前寺駅で車中にいたとき突発した地震は、「前震」とするということであった。

奥さんは19歳のとき、阪神淡路大震災に遭い、2ヶ月の避難生活を経験した人だった。私は自分の子どもと同年代のこの人を、頼もしく思った。

「避難生活は体力勝負ですよ」ともおっしゃった。「道を歩くときは、道路の中央を歩く。両側の建物が倒壊して上から落ちてくるかもしれないから」と、経験者ならではの

付け、家の中の通路を確保した。余震が続いていた。近くの小学校の体育館が避難所になっていると聞き、日が暮れると怖くなり避難することにした。

幸い停電にはならなかったので、テレビで地震の情報を見ることができた。火災は少しあったようであるが、東日本大震災のとき、気仙沼市で大きな火災がいくつも発生したのは、家庭にある電源盤のブレーカーを切っていなかったことにより、通電で火花が散って火事を起こした例が多かったといっていた。避難するときは、ブレーカーを落として呼びかけていた。

15日の夜、もう家を出よう、出ようと思いながら、玄関の扉を開けたまま、避難の支度をしていると、家の前の道路を若い夫婦と幼い坊やの一家が通りかかった。知らない人たちがあつたが、奥さんの方が、

「避難しませんか。いっしょに行きましょう」と声をかけてくれた。

「ブレーカーを落とせないです。足台を、下が散らばっていて置けません。高くて手が届かない」と言くと、背の高いご主人が、「僕がやつてあげましょう」と言って、台

話をしてくれた。

それから、自己紹介合つて、携帯電話の番号を教え合つた。熊本に来て10日目と聞いた。ご主人の転勤で熊本にきたと。私宅から歩いて2分くらいの新しいマンションに住んでおられた。マンションのすぐ近くに小さなスーパーがある。地震後すぐ閉店し、営業を再開したときはメールで教えてくれた。

断水したので、困窮した。雨が降ると雨水を貯めたが、トイレを流すのには足りない。飲料水は、避難するとき知り合った奥さんが、2歳の坊やを連れ、給水車の水をベビーカーに乗せて「水、ありますか」と言い、何回も持ってきてくれた。

給水車が小学校のグラウンドに来たが、暑い日に2時間以上並んで、あと7人というときに、「給水車の水がなくなつたので、水を積んできます」と言って、いつ帰って来るとも告げずに、給水車は立ち去った。

都市ガスも途絶えた。プロパンガスを備える、大江の娘の家にまた泊まった。大江は断水が早くに解除になっており、ポリタンクに入れてもらってきた。家では卓上コンロで料理をした。

都市ガスの供給が止まって数日後、ガスの元栓を閉めに来たのは西部ガスの人だった。開けに来たのは名古屋から来たという「東邦ガス」というネーム入りの作業服のふたり連れだった。

本震以降あまりに多くのことがあり、話の前後が混乱し、時系列で表すことができない。

武蔵塚駅前のバス停でバスを待っていると、「岡山市消防局」と書かれた大型消防車2台と、救急車3台が列をつくて通って行った。全国規模の、または西日本規模の救援がっているのが窺えた。

昨年、南阿蘇村にマイホームを建てた末娘が、夫婦で避難してきた。この夫婦に子どもはいない。

阿蘇大橋が大規模な山腹崩壊で埋まって崩落し、国道57号が通行不可になった。西原村のグリーンロードを通って来たと話した。地割れしたり凸凹になった道路を通って来た、車がトヨタのランド・クルーザー（荒地地踏破用の車）でよかったと言った。親としては、車底が高い車で四輪駆動車であっても、バウンドしながら進んだと想像し胸を痛めた。

末娘は夫婦とも職場は菊陽町なので自宅から近い。別の

たことなどを思い起こし、自責の念にかられる。ダメ人間のレッテルを自ら貼る。たまに遠く離れた地方の地震情報があると、地球が壊れるのではないか、日本列島は沈没するのではないかなど、根拠のない杞憂にとらわれる。

《もうひとりの精神科の話》

別の精神科医の知人（女性）に悩みを打ち明けると、それはPTSD（心的外傷症候群）で、突然の災難や危害に遭うと、そうまで否定的に自分をとらえる必要のない感情をどうすることもできない、制御できない、そんな症状だと説明した。脱する方法はいくつかあり、研究中だと資料を見せてくれたが、難解であった。

《歯科医の話》

歯科医の話も参考になった。彼女は、彼女のフェイスブックのサイ



被災した阿蘇と医療支援スタッフ

日には、地震のあと自宅の家庭電話が故障して通じず、私が携帯電話にも出なかったので、職場の近くのホテルに泊まったという。末娘は植木町の夫の実家、大江の姉の家、そして武蔵ヶ丘の自分の実家と渡り歩いて泊まったことになる。地震難民だねと同情しながら、少し笑い合った。

《精神科医の話》

精神科医の知人が、1995年の阪神淡路大震災の後神戸に行き、帰ってからスライドを見せながら説明したことがあった。パワーポイントは、まだないころだ。

彼の話では、医療関係では震災直後、すぐに必要なのは内科と外科・整形外科で、ひと月後くらいから精神科の出番という。

その話を、地震を体験した今、しみじみと理解する。何かしら自分を責めるのである。助け得た家族や身近な人を助けられなかったわけではない。不思議な心理現象である。

十年以上も前に亡くなった両親のことを、もっとよく世話してあげればよかった、すまなかったという気持ちがいりたりする。友人知人との約束を守れなくて、多々不義理し

トで、避難所暮らしが長期化すると、口腔内の手入れがおろそかになり、異物が肺の中に入り、肺炎を起こし死に至ることもあると紹介した。肺炎で亡くなった人数が、昨年の同時期の二倍だという新聞の記事も目にした。職場に勤務しながら、今回の地震の被災者の避難所の救援にまわっている。

災害があると歯科医は、歯で遺体を誰であると特定するとは知っていたが、そこまでは考えなかった。応援の歯科医、歯科衛生士らとともに口腔内の手入れをお手伝いしたそう、その情報に注目したラジオ局の人が、世界42か国に流してくれたそうである。

私は医師に恵まれていると痛感している。友人にも恵まれている。

親しい友人らは、今の苦しさを吐き出すのがいいとアドバイスしてくれた。そのひとつとして、本稿を書いてみた。

【あかぎ・みつよ、熊本市東区】

この度の熊本地震には大変驚かされました。私たち人吉在住者でも二回目の本震には、これはただ事ではないと心配しました。

私にも熊本市内に知人や親せきが多く、電話で安否を

確認し、一喜憂しましたが、その中に人吉高校五回生同期の加登住道君から丁寧なお手紙を頂き、更にこの度の経験を通しての印象を、とても的確にまとめて付記されていきましたのでご紹介します。
(瀬戸致行)

被災20日間

加登住 道

今回の熊本地震は、80余歳となる私にとっても初めてのことであり、未だ完全に終息したとはいえませんが、この経験を通じて強く印象づけられたことが多くありましたので、蛇足を弄することはありますが若干記したいと思います。なお、多数の被災者に加えて、困難な生活をされている方々に心からご同情申し上げます。

◆人の絆を痛感◆
地震発生後、これまでご縁があった多くの方々から、お見舞いや励ましのメッセージを頂きました。この数十年、年賀状の交換だけでお会いすることもなかった方、さらにはお話しする機会もなかった方から電話など頂き、直接お話しすることが出来たことは誠に嬉しいことでした。このようなご厚意に接し、人間の絆と言いますか人の情けのありがたさを痛感いたしました。
また、通常は挨拶を交わす程度だった近所の方から地震直後、たまたま開いていた店から購入したという新鮮な野菜や飲み水のボトルを頂くなど、地域社会の縁も強く感じました。

災害に便乗した空き巣などの事件はありましたが、外国の例にあるような暴動が起きたり、そのために警察が出動するという治安への不安は一切ありませんでした。警察や自衛隊はもっぱら救助・救援活動に従事、その姿を身近に見て我が国の治安の良さ、社会の安定を改めて認識させられました。

おりました。

◆支援・救援に感謝◆

都市ガスの供給再開を前にしたガス漏れ検査には大阪ガスの社員が来訪し、自宅前のマンホール点検には東京都下水道局のクルーが品川や練馬ナンバーの車で来たり。被災家屋の危険度調査は岐阜県庁の職員、ほかに宮城ナンバーを付けた災害派遣の四駆を見かけるなど全国各地から支援活動が行われている事を目にして、非常に心強く思いました。

私宅から車で15分ほどの所にある大型ショッピングセンターは4月16日の本震直後から、おにぎりやパン、その他の食料品を販売する青空市場を駐車場に開設。個数制限（おにぎりは1人2個、食パンは5枚入り2袋）はありましたが、すべて1個100円という通常よりも安い価格で提供していました。レジが使えぬため計算しやすく一律100円にしたと思いますが、地震直後の混乱した状況下で大変助かりました。
また同センターが経営する温泉浴場は本震翌日の17日から営業を再開。水、ガスとも止まっていた私どもにとって何よりでしたが、通常600円を500円に値引いていたのには驚きました。

◆ネット社会を認識◆

地震直後はスーパーもコンビニも休業するか品切れの状態でしたが、2〜3日後から若干の品物が手に入るようになりました。数量が限られているので手に入らぬ品もありましたが、便乗値上げすることなく平常の価格で営業して

私の自宅は熊本市の東の外れ、最も被害が大きかった益城町の近くに位置し、平成の初めに造成された400戸余りの団地にあります。市内では最も強い揺れに遭った地域と思われるが、団地内の家屋はほとんどが無傷でした。



サツマイモの苗植え作業

☆活動内容☆
 あなたにも出来る復興支援。農業復興ボランティア!!
 待つてはくれない野菜の成長。待つてはくれない適した農作業のタイミング。家の片付けなどのために、遅れてしまった農作業のお手伝いをします。

このセンターは行政組織でなく、熊本市と大分県の旧中津江村で暮らす若者二人が中心になって、急遽、立ち上げた「西原村農業復興への支援活動」が目的だった。このボランティアセンター発足を考えた河部吉朗さんの全国への呼びかけ文をFBより引用して紹介します。

携帯電話（スマホ）とネット情報システムを活用した呼びかけに、全国から駆け付けてくれた大勢のボランティアの数は10人、20人と増え続け、2週目頃には40人もの参加に急増したのです。パソコンで募集情報を知った私も、当然その中の一人でした。

西原村農業復興支援に参加して

佐伯勝利

「地震が起きてから一週間は逃げ回り（避難）、次の一週間は被災家屋・家財などの片付けに追われ、農作業に全く

これは、現在の建築基準法で耐震性が備わっていたためであり、建築基準法による耐震基準の重要性をまざまざと感じました。ちなみに危険度調査でもほとんどの家が緑色の判定でした。

九州自動車道が不通になったり、新聞販売店や配達員も罹災している中、いつも通りに早朝5時半ごろには新聞が届きました。他の新聞も同じだと思いますが、如何にして通常通りの配達が出来たのか、本当に感心しました。

私はパソコンもインターネットとも無縁の生活をしていましたが、千葉に住む娘からスーパリーの営業再開や温泉浴場な

どのネット情報が携帯電話に送られ、それを参考に行動しました。遠いところにいる娘の方が地元にいる私より早く、多くの情報を得ているという、まさに情報化時代を強く認識させられました。

以上、思いつくままに書き綴ってしまいました。大地震という異常な状況の中で、通常では経験しない、あるいは気づくことのないようなことを体験したので記した次第です。
 （5月5日）

【かとうみ・ただし。熊本市】

手を付けられなかった。」

「特に遅れていた甘藷の植え付け作業がボランティアの皆さんのおかげで助かっている。」

これは、5月の連休明けから開始された「西原村農業復興ボランティアセンター」の支援活動を受けた或る被災農家からお聞きした声である。



私と一緒に農作業を支援した皆さんの参加県（5月13日～27日）秋田県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、長野県、岐阜県、三重県、広島県、山口県、九州各県

雨天以外は連日、村内の農家から支援依頼があり、数名ずつの班編成で、甘藷苗植えや昨秋掘り出して貯蔵中の甘藷を選別箱詰め作業、ニンニクの収穫や野菜の支柱立て、桃の袋掛け等々慣れない作業ながらも農家から手ほどきを受けながら支援者の皆さんは精一杯頑張っていました。

被災農家の中には、住家全壊して命からがら這い出して生き延びたというSさん夫婦や増築した部屋以外の母屋は全壊し、農機具など格納していた農舎も取り出せないほど倒壊しているMさんなどTVや新聞報道と全く同じ厳しい被災状況を目の当たりにしながらの農業支援活動でした。

【さえぎ・かつとし。熊本市】

沈むベット

宮原信晃

本震発生から二週間後の熊本市東区役所の会議室にいた。

「A班は小学校と中学校。B班は避難所へお願いします」と集まった医療ボランティアがこれから行く派遣場所を振り分けている。ここは、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療機器・はりきゅうマッサージ師などが一同に集まり、本部の指示で各所へ分散して向かう東区の拠点である。

私は県鍼灸マッサージ師会の会員として参加し、福岡より駆けつけてくれた仲間や、広島から来たという鍼灸師と共にまずは託麻西小学校へ向かった。

指示されたこの小学校の各教室には20名程の方の毛布

不揃いに並んだ毛布の間を通って声をかけていく。

「お体、大丈夫ですか？」

「体が動かなくなってきた」とおっしゃる93歳のおばあちゃん。

震災後、ここに毎日寝泊まりしている。寝ているマットは10センチほどの厚さ、寝ているのが楽という。

そこに入って立つてみた。

私の足首が入り込む深さだ。

起きてみて下さいと御願いますと、起きるのが一人では無理なのだ。

起き辛いから、オシッコにも行かず、トイレを辛抱する



各地から駆けつけた医療ボランティアの活動（筆者撮影）

が敷いてあり、一教室5〜6名の方が休んでおられた。

「お体はいかがですか？ 腰や体が痛んだり疲れておられませんか？」と声を掛ける。私と同じくらいの年齢と思われる女性が、「腰が痛くて寝てばかりいます」と返事があり、さっそく予診に入る。震災後の片付けの後から腰が痛み、体を動かす時に痛み、朝の起床時が一番痛むとのこと。はり治療をして、起きて歩かせると痛みがなくなり喜んでおられる。

腰痛体操を、周りの方々も立たせて腰を回したり、膝を曲げて前屈、腰を後ろにそらせてと、少し賑やかになってきた所に、ドクターの視察。

「ご苦勞様ですね」とご挨拶を頂き「はい、手を大きく振って」と行進曲をかけているようにみんなが膝をあげ、手を前後に振って笑顔でドクターに返事をした。

次は長嶺小学校に行ってみる。

広い体育館には仕切りもなく、只、床に毛布を敷いてあるだけの、だだっ広い床面積。そこに高齢者の方々が横向きや仰向きに寝ておられた。

ために水を飲まない。只、寝ているというのだ。

手の脈を診てみると、「渋る脈」だ。血液がスムーズに流れなくなっているのがわかる。「おばあちゃん、立つてみようね」と体を起こし立たせてみた。

「よっこら、よいしょ」とばかりに立たせたけれども、沈み込むマットの上には立てないのだ。足の裏がしっかりと床に着かず、グラグラするマット。

寝るためのマットは、起きれないマットだったのだ。

東区役所の本部に帰って報告をする。「寝るマットは一人では立てない。立てないからトイレにも行かず水も控えて動けない状態だ。さっと起きれるベットを早く設置しないと、この方々はエコノミークラス症候群になる」。

3ヶ所を巡り6名程の治療をさせてもらったが、まさに「野戦病院」。

この後、ダンボールで組み立てるベットや木材の組み立てベットが支給されて、立ち上がる辛さは解消されつつある。あのおばあちゃんたち、元気でいるかなあ。

【みやはら・のぶあき。宮原はり灸院院長 人吉市】

「明治熊本地震」と

ことうぶんじろう
小藤文次郎

木崎康弘

1、はじめに

今から127年前の、1889（明治22）年7月28日に、熊本市周辺でM6.3の直下型地震があり、大騒動になった、との記事を最近見かけることが多くなった。それもそう。去る4月14日の前震、16日の本震で始まった「熊本地震」がそうさせているのだから。ということは、仮にそれが起きなかったとしたならば、恐らく100年以上前の地震のことなど、何の話題にも上らなかったはず。人の記憶とは、それほどまでに希薄で、脆弱なものなのだろう。

ここ数年来、明治期から昭和初期にかけての考古学史を主眼に、その当時、発行された学術雑誌や書籍を、インターネットや国立国会図書館のオンラインサービスな

どを活用して検索し、必要な論文や書籍を入手するということをやってきた。そうした中で、『地学雑誌』第1集第9号に掲載された小藤文次郎の「熊本地震概察報告」を知ったのだった。その報告は、冒頭記した1889（明治22）年7月28日に起きた大地震、「明治熊本地震」の調査報告だった。そこで、今回の「熊本地震」に関連して、かつて起きたその地震について取り上げていきたい。

2、小藤文次郎の調査記録

小藤は、日本の地質学や地形学の揺籃期に活躍し、その発展の礎を築いた人物だ。その専門性は幅広く、地質学、岩石学、鉱物学、火山学、地震学などを修めた。また、1884（明治17）年に帝国大学（後、東京帝国大



小藤文次郎

学、現、東京大学）理科大学講師に就任し、後に教授に就いた。生まれは、安政3年3月4日（1856年4月8日）で、石見国（現、島根県）津和野。1877（明治10）年、帝国大学（後、東京大学）に進み、ナウマンに学んだ。地質学第1期の卒業で、1880（明治13）年に、ドイツのライプツィヒ大学、ミュンヘン大学へ留学し、帰国後に母校の講師に。1935（昭和10）年3月8日没。

そんな人物が「明治熊本地震」の調査で来熊したのは、その報告中に「本官八月一日午後八時着熊せし」とあったように、地震発生の4日後のことだった。そんな急ぎの調査行動は、『官報』第1863号（明治22年9月12日付け）の冒頭に次のようにあったごとく、明治政府からの囑託によったもので、当時の政府関係者の衝撃を今に伝えてくれるものだった。

「○地震概況報告 過般熊本県下震災二際シ理科大
学教授理学博士小藤文次郎ハ農商務省ノ囑託ニ依リ
地質調査ノタメ同地方巡廻中震災二関シ取調ヘタル
概況ヲ報告セシコト左ノ如シ（農商務省）」

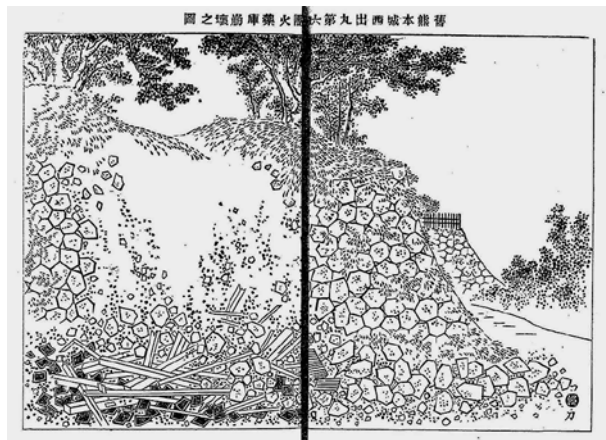
そして、その結果を「熊本地震概察報告」に取りまとめ、9月25日発行の『地学雑誌』に寄稿する一方で、そ



『熊本明治震災日記』の表紙

の抜粋が「○地震概況報告」と題して9月12日付け『官報』に掲載されたのだった。

そこで先ずは、小藤の調査行動を辿るところから始めるが、その参考にするのが『熊本明治震災日記』だ。その年の10月20日に出版されたその書籍は、県内最初の新聞、白川新聞の発行者だった水島貫之が「明治熊本地震」の記録を残そうと、その時々で発行された新聞各紙の記事や、折に触れて発せられた熊本県からの報告などを引用しながら記述し、編纂したもの。そのボリュームは、本文214頁、付編33頁、総頁247頁に亘っていた。

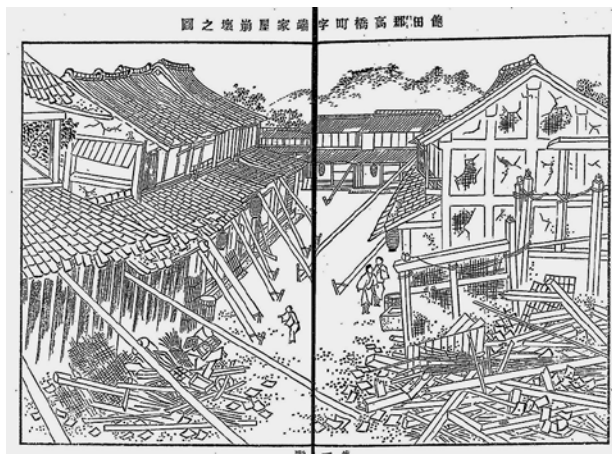


熊本市西出丸第六師団火薬庫崩壊之図

また、「小藤博士は本日熊本新聞に一書を投じ」たようで、「取敢へず即日附録を発売して我が同胞に示したり」と、急遽附録が発行されたようだ。その内容とは、「地震に就き人民の注意すべき件

4、金峰山塊爆裂騒動へのメッセージ
8月2日、晴、県庁で地震のことを聴取し、その後、「若林本県庶務課長松崎熊本市助役本県土木掛外に巡査一名」とともに、市内被災状況の巡視と、「一々其現状を図に写されし」との記録採取を行った。その日の投宿は、精養軒。

即ち●漁業者に注意を望む●地震の前徴等」というもの。
8月3日は、晴だったようだが、「午前2時15分俄然大震動を起せり（県庁調は二時十八分とし海西日報は二時十分とせり）」と、早朝での激震が記されていた。小藤のつ



熊本市西出丸第六師団火薬庫崩壊之図

実はその中に、幾度も「小藤文次郎」が登場していたのだった。つまり、それを捲ることで、調査行動が再現できるわけだ。
3、「明治熊本地震」の勃発と小藤文次郎の来熊
7月28日は、「二十七日に至り始めて蒼天を仰ぎ翌二十八日に至れば数旬の煩悶を忘れたるかことし」のそんな晴天だった。文中の「数旬の煩悶」とは、6月中旬から続いた「連霖三旬余」（二ヶ月余り続いた雨）と、それによって引き起された「各郡多少の水害」や「市内瀬戸坂のとき七月廿三日高岸壊崩してために家を潰し人を圧死するの惨状」だった。まさにそれを忘れさせてくれるかのような青空だったわけだ。
そして午後11時49分、「家屋頓に動揺を始めぬ」と、地震が勃発したのだった。その時の行動は、いつの世でも同じで、屋外へと非難すること。
「続いてまた再び震動の興り来れば皆庭前芝生の上に座せしむ此第二の動揺収まりて始めて時計を検するに十二時五分前を示せり」
こうして「明治熊本地震」は始まったのだったが、明治政府の反応は俊敏だった。県からの調査員派遣の要請

を受ける形で、内務省地理局員の馬場信倫の派遣を決定した。また、小藤への調査委嘱も同時に行われたのだった。その委嘱された記事が次の一文だった。
「理科大学教授理学博士小藤文次郎氏は農商務省の嘱託を受け地質取調として大分県へ出張し当時臼杵の温泉に滞在中今回の地震に遭遇せられ熊本県下震災の甚しきを伝聞し其模様取調の為に同地出發急行して本日夜に入り来着せられたり」
これが、既述「本官八月一日午後八時着熊せし」の示す小藤の来熊だった。すると、この来熊の事実が地震に怯えた熊本市民に元氣を与えたようで、その辺りのことを、水島は、次のように記した。
「三十日に京地出發を報せし馬場属の着熊は今一兩日の後にあるべしと指折り算へて一日千秋の思ひをなし持居りたる市民にして忽然小藤博士の来熊を聞きし歓声は家々戸毎に喧ひすしき程なし」
なかなか到着しない内務省の地理局からの派遣員「馬場」へのいら立ちと、思わぬ小藤の来熊が、この一文によく表されていた。そして投宿する「下通町山本屋」に入り、翌日、早速調査行動を起こしたのだった。

午前7時から、「西山検査として出発せり」だった。西山とは、熊本平野の西に横たわる金峰山塊のこと。「中島警部輩田庶務課属」が随行し、「郡吏巡查両三名」も従ったらしい。また、各新聞社からも特派員が同行し、取材を行った。

その金峰山塊の調査の目的は、「衆人か今回地震の原因を此山なりと憶へはなり是を以て（中略）今回大地震後衆民に安堵を与ふるの第一着となれり」とのこと。そこでの調査内容は、墓碑の損壊状況、湧水の状況、岩石採集、地震状況の聞き取り、裂地の調査などだった。そしてその結果を、『熊本新聞』を通じて、次のようにメッセージした。

「西山破裂の恐れならん尤もより破裂するも山上に破裂することはあるましく随つて熊本市などは危険少なからん乎」

地震の科学的知識が乏しく、しかも地震情報に克明に報道される今日とは違って、情報が極めて少ない当時、ことであつた。このメッセージが如何に熊本市民に安堵感を与えただろうことは、想像に難くない。

この日は、「玉名郡小天村」（現、玉名市天水町小天）に投宿し、また翌日も金峰山塊を調査しようだ。

月7日付けで「同人の伝言とあるは出張警部通報の誤」と訂正されたのだが、もうすでに、遅きに失した。小藤の伝言との誤つた情報は一人歩きを始めたのだつた。そして、「斯の第三報告を出されしより市内人心の静穏は却つて狼狽激変の景況となれり」と、俄かに騒がしくなつていったようだ。その様が次のように記述されていた。

「熊本新聞曰く（中略）二の岳最寄終に破裂せざるを保し難しとの旨を報せざる、や否や待ち兼たる市民崩然として近在近村に荷物を運ぶ車の聲歩し人の足音騒々として引を切らず（後略）」

要するに、人々は、爆裂するとの噂から近在近村に荷物を持つて逃げ出したのだつた。すると「火事場泥棒」さながら、その気に乗じて儲けを企む者も現れる始末。その際たるものが、「今回震動後再震の（中略）車馬の賃金（中略）二日後に至り非常の高値を貪れり（後略）」との、車賃の高騰だった。

「熊本新聞曰昨（三日）午前十時三十分頃迄は山鹿町へは五十銭なりしも同日（四日―筆者補註）午後三時頃に至り荷車一輛五円を与ふるも容易に行くものなく松橋へは人力車一輛一円五十銭位では誰一人行かんと云ふ者なく（後略）」

8月4日、晴だった。この日の『熊本新聞』や『九州日日新聞』でも、メッセージを発した。

「三日（前略）其日五時頃に至り小藤博士か金峰山破裂異常なかるへしその報道をなして（後略）」（『熊本新聞』）

「又た同新聞（『九州日日新聞』―筆者補註）は小藤博士か西山探検の一班を記し恐怖するなかと冒頭をか、けて本日の附録とせり」（前略）容易に西山の破裂することはなかるへし（後略）決して無暗に恐怖狼狽せずともよろしかるへきなり云々」（『九州日日新聞』）

ところが、あろうことか、8月4日付けの「熊本県臨時第三報告」で誤つた情報が出されたのだつた。

「小藤理学博士来県に付地震の原因調査を託し昨三日より実査に着手せしに本日同人の伝言によれば二の嶽最寄少しく怪しむべきの形跡あり尤今俄に破裂するの見込にはあらざるも終に破裂せざるを保し難しと言ぬ依て該最寄村落人民に立除きを命ずるの場合あるを計り難くに付今其準備をなせり猶確たる報告を得更に広告すへし」

「小藤理学博士（中略）本日同人の伝言」との報は、8

8月5日、そこで熊本県は、早朝に「熊本県臨時第四報告」を発して、事態の鎮静化に乗り出した。それは、小藤からの通知を原文のまま載せた報告で、鳴動小震に止まつていて、大事に至る徴候ではない、というものだった。

「当今の地下不穏は西山山麓の西北部に存するがごとく想像す然れ共其不穏たる単に鳴動小震に止り大事に及ぶべき徴候を見ず／八月四日午後十時 玉名郡小天村滞在 小藤文次郎」

その背景を熊本新聞は、次のように記したようだ。

「西山実査中なりし小藤博士か小天村滞在中熊本動揺の由を聞き太た笑止に思はれ実査中随行されし葦田本県属を特に帰庁せしめ臨時報告にある通りの信書を贈られしと云う」

金峰山塊爆裂騒動を、まさに笑止、ばかばかしいこと、と感じての通知だったわけだ。

この日、小藤は、「小天村より面木、平山、船津、松尾の諸村を実査し午後三時過ぎ寓所なる精養軒に帰られたり」とあつた。小天から金峰山塊に入り、面木（熊本市西区河内町面木）、平山（西区松尾町平山）と山中を調査して、船津（西区松尾町船津）で平野部に出て、松尾（西

記すれば		震災被害表									
地名	家屋全半倒壊	死傷	被災地	道路全	山林精宅地全	堤防全	橋梁全	井水全	滅全濁		
熊本市	三	二男	二	三	三	三	三	三	三	二	三
飽田郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
託麻郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
玉名郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山鹿郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山本郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
菊池郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
合志郡	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	二	二男	二	二	二	二	二	二	二	二	二

区松尾町）を調査して、熊本に戻ったようだ。そして、噴火の兆候はないとの調査所見を熊本県に報告。熊本県は、「熊本県臨時第五報告」を出して、その弁を告知した。「小藤理學博士帰熊に付調査の模様を聞くに今晚第四号報告の通目下破裂の兆候なし此旨廣告す」この報告を以て、熊本県は第一次の調査を終了したよ

に來熊されたるなり」

これが馬場の弁明内容だ。そして、『熊本明治震災日記』に次の一文があったように、翌6日に調査を実施した。

「内務属馬場信倫氏は本日（6日―筆者補註）金峯山の近傍実査として本県巡查一名随行午前九時より西山へ向け出発せられ同日午後九時頃巡視を了へて旅寓へ帰る同氏の筆記を九州日日新聞に投寄せられたる」

ここに「九州日日新聞に投寄せられたる」とあったものが「謹て市民諸氏に乞ふ」だ。『熊本明治震災日記』にも転載され、その中に、來熊の経緯と、調査実施までの動きが詳しく記述されていた。そして、結びを次のように締め括った。

「県庁に至りて震況と爾後の模様を聞き大に然らざるを知れり然れども市民露縮の有様諸方に避難の景況中々以て鎮静の姿なし（中略）果して今日踏査したるに其徴候となるべきもの更に確認せざりき且西山に疑ふべき所ありと云ふの説も余の遽かに信する能はざるものあり兎に角市民諸氏向う三軒兩隣の騒き立つを見て恐怖避難の義理附合を見合せ給へ徒らに車屋の懷ろを肥し賜ふな」

震災被害表

うで、『熊本明治震災日記』にこうあった。「県庁にては、本日に至り県下市郡震災に付き詳細の調査を了へられしなり」そして続けて、「今これを略記すれば」として、「震災被害表」を掲げられていた。また、「熊本市外九郡震況の略」として、「熊本市」、「飽田郡」、「託麻郡」、「玉名郡」、「山鹿郡」、「山本郡」、「菊池郡」、「合志郡」、「上益城郡」、「下益城郡」の被災の実状を具体的に例示して、概略を説明した。この小括は、小藤の中間報告を受けたもので、特に熊本市民を恐怖に陥れた金峰山塊爆裂問題に終止符を打ったことから、行われたものだったのだろう。

5、調査終結と離熊―おわりに代えて―

8月5日の午前9時に、「内務省地理局属馬場信倫」が「一名の従者」を連れて、長崎からやって来た。この遅れての來熊は、どうも連絡の行き違いにあったようだ。「長崎及び対州巖原の測候所へ出張を命ぜられ京地を出発して長崎に着すれば本省より熊本へ出張すべしとの電報着き居りしを以て長崎対州を指置き直ち

「市民露縮の有様諸方に避難の景況中々以て鎮静の姿なし」は、今の避難地の状況とまったく同じ様子だ。おそらく、そうした状況が長く続いていたのだろう。そして、金峰山塊が危ないとの説には賛同しないことを述べ、市民に対しては、決して慌てずに、冷静でいてほしいとのメッセージを発したのだった。

こうして小藤による「明治熊本地震」の調査は、一区切りを迎えることとなった。その後、小藤は、21日に島原半島に渡ったり、再び熊本入りして甲佐岳や八代海沿岸などを調査したりした。そして、8月31日に三角港より汽船で長崎へと向かった。

「熊本新聞は九月一日発の長崎通信を掲げて曰く小藤博士は八月三十一日三角港より汽船にて來崎し江戸町鶴屋方に投宿即日長崎測候所に至り（後略）」

小藤の調査が一区切りを迎えた日の8月5日から、最終的に汽船で熊本を離れた日の8月31日までの間、さらに別の地質学者や地震学者が、「明治熊本地震」の調査のために、熊本に足を踏み入れていた。その辺りのことも『熊本明治震災日記』に引き続いて記されていた。そこで、次回は、それらの調査を辿ってみることにしたい。

（つづく）

震災を詠むということ

永田満徳

この度、熊本は未曾有の地震に見舞われて、多くの方が被災された。その地震と被災の状況を俳句として残すことは俳人としての使命ともいふべきものである。

大震災に真に対応しえるのは、こと詩歌に限って言えば、



益城町（筆者撮影）



詩でも短歌でもなく、俳句ではないであろうか。それは俳句が短詩型文芸であるのみならず、「写生」という表現方法にあるからである。

俳句は「写生」を基本とする。写生とは字義通りでは「景色や事物をありのままにうつしとること」（『広辞苑』）である。「ありのままにうつしとる」ためには、「よく見る」ことである。しかし、この「よく見る」ということは簡単なようではない。

翹わつてんたう虫の飛びづる

「てんたう虫」句は写生の神様と称される高野素十の特色がよく出ている。背中を中央から左右に開いて飛び立つ様を捉えて、「割る」と表現したところに、「よく見る」との神髄を教えてくれる。

翹広げ天道虫の飛び立ちぬ

素十の句に対して、この句はよく見て、素直に詠んでいるものの、単なる出来事の「報告」であり、「何がどうした」という内容を伝える「説明」になっている。報告句や説明句は季語定型という俳句の規矩に則っているとしても、俳

句としての評価は低い。

すでに記録的にも、かつ文学的にも価値の高い文書を書き残している人物がいる。平安末期の鴨長明である。『方丈記』には鴨長明が体験した一二八五年の元暦地震が触れられている。その臨場感あふれる筆致は地震の実態を過不足なく、忠実に、非情とも言えるほどリアリティに描き出していて、文学的に記録することの見本を示している。

もちろん、熊本地震については、膨大な公式の報告書が書かれていくであろう。単なる報告であればその報告書で十分である。俳句という文芸に求められるのはいかなるものであるのか。

言うは易く行ふは難しという言葉通りの困難を乗り越える試みは東日本大震災の句として提出されている。



熊本城（筆者撮影）

震災詠と呼ばれる震災句で評価の高いのは、長谷川櫂が「震災句集」としての意義を認めた高野ムツオの

『萬の翹』（角川学芸出版、二〇一三）である。

四肢へ地震ただ轟轟と轟轟と

車にも横臥という死春の月

陽炎より手が出て握り飯掴む

みちのくの今年の桜すべて供花

「轟轟」という擬音語の効果、「横臥」「供花」という用語の衝撃的な印象、「陽炎より手が出て」のおどろおどろしさによって、東日本大震災の実態を抉り出している。

東日本大震災を機とする「日常に入った亀裂を危機感とし現実化した」と評された曾根毅の震災句も異彩を放っている。

薄明とセシウムを負い露草よ

桐「葉」にもマイクロシーベルト

山場として濡れている放射能

原子まで遡りゆく立夏かな

「セシウム」「マイクロシーベルト」「放射能」「原子」という荒削りな、詩語としては未成熟な措辞を敢えて使用することによって、福島原発事故の危機状況を炙り出している。私も紛れもなく震災経験者の一人となった。否応なく、

■非常用品の確認を!

非常食
缶入り乾パン
ドライフルーツ
ビスケット
缶詰
インスタントラーメン

水
*1人1日3リットルを目安に3日分は用意

生活用品
ライター・マッチ
ティッシュ
ナイフ
ビニール袋など

衣類
下着・上着
手袋・靴下
タオル
防寒着
雨具など

貴重品
通帳
免許証・保険証

現金
*公衆電話用の硬貨も便利。
空のフィルムケースが役立ちます。

救急薬品・常備薬
絆創膏・ガーゼ
包帯・消毒薬
*持病のある人は常備薬も

携帯ラジオ
*予備の電池も忘れずに

懐中電灯

ろうそく

入らうに
入れて

*これらは一例です。
それぞれの家庭で
工夫してください。

災害に備える

「熊本県防災情報」ホームページより
<http://cyber.pref.kumamoto.jp/bousai/>

今後の大雨災害に
対する心構えとは—

■土砂災害のまえぶれ



- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 川の流れが急に濁ったり流木が混ざったりし始める
- がけに亀裂ができる
- 小石がバラバラと落ちてくる
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水がふき出る

■避難の心得



- ラジオなどで正しい情報の入手を
- 電気のブレーカーを落とす
- あわてて戸外へ飛び出さない
- 明るいうちに指定避難所へ
- 側溝・川べりは危険がいっぱい
- 崖崩れに注意
- 歩いて避難、荷物は控えめに
- 日頃から家族で避難場所の確認を

復興支援チャリティーイベント

様々な復興支援の形があるなか、音楽を中心にした人吉球磨のチャリティーイベントのいくつかを紹介する。

チラシの左上から、「球磨川ジャズの夕べ」奥村和彦ピアノトリオのライブが6月17日(金)午後6時より球磨村の石の交流館「やまなみ」で、毎年恒例となったあさぎり町

須恵文化ホールの「立ち上がれ東日本!!」のチャリティーショーに今年は「第1回 立ち上がれ熊本!!」という名称も加えて7月10日(日)の12時半より開催。フリーパス形式で3ヶ月にわたりイベントを行うのは人吉市上薩摩瀬町イタリアンレストランBUONO BUONO 横のイベントホールPRIMAVERAでの「チャリティーコンサート」。このほか人吉よさこい銀翔会による「がんばろう熊本!復興イベント2016」8月21日(日)では、市内三ヶ所の会場にて踊りで復興を支援する。スケジュールの詳細は巻末の予定表を参照のこと。

震災句とは何かということを意識せざるを得なくなった。私は私で、私の句を作っていくばかりである。

こんなにもおにぎり丸し春の地震
春の夜やあるかなきかの地震に酔ふ
新緑や湯に流したる地震の垢
石垣の崩れなだるる暑さかな
「負けんばい」の貼紙ふえて夏近し
夏蒲団地震の伝ひし背骨かな

骨といふ骨の響くや朱夏の地震
霾天に遍満したるへの音
被災地の流言飛語や走り梅雨

熊本地震とその被災の実態に対して、「よく見る」という写生の基本に立ち返るとともに、「よくふれる」こと、「よく感じる」ことのなかからしか、心に残る句が生まれなことを肝に銘じて、一句でも多く詠みたいと思っている。

【ながた・みつり。俳人協会会員、熊本市】



イセビとキジンマ

人吉んみやげにやキジンマ（きじ馬）ば、て云うもんなううかつど、平家の落人がおなごん子にや花手箱、おとこん子にやキジンマば作ってくれらいたとが始まりじやったげな、そんなころんキジンマの色にや、あつか（赤）所つにイセビ（ガマズミ）ば使こうて、緑ん所んにや麦の若葉ば使こうて、きん（黄）か所つは、クチナシん実ば使こうとつやいたげな。こん三つのいつぺんに揃えらるつとは、寒うひなつて霜の降りきやうつたつた頃で、麦ば蒔いてしもうて、炭どん焼きながらばし作つおらいたとかもしれん。

クチナシの黄なは、よかんびやに付いたで麦ん緑ば塗って、イセビん赤ば塗ってみたつちや色ん薄うしてはつきりやせじんカスのついとつたで、テンゲ（手拭い）のぼろかとは貫ろうて四つにうち切つて、一ちよずつ布んつつんで絞つた汁で同じて色ば塗つたつちや、カスの目立たんぐりやで、色ん濃ゆさは何遍塗つたつちや濃ゆうならじやった。イセビん実はいつぺん霜どんあたれば、甘うなつおつたで口ん中きやらずびや銜えて種ばプツツて吐き出しおつたで、キジンマに塗つたともいつまつでんベタベタして乾かんじやった、麦と草の緑も一時すれば茶色んなつおつたで、今ん絵の具ては、ならじやった。

【まつふね・ひろみつ。青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

最近のおもな出来事

- 5月21日（土）
 - ▽人吉ふれあい「百田商店街」
- 5月22日（日）
 - ▽第30回「織月まつり」
- 5月29日（日）
 - ▽MOZOCASテーション開館1周年記念イベント
- 5月29日
 - ▽相良700年の遺産「郷土の石塔拓本展」
- 5月31日
 - ▽八代神社（妙見宮）「氷室祭」
- 6月1日（水）
 - ▽球磨川水系アユ漁解禁
- ▽人吉温泉統一浴衣お披露目会
- ▽青井阿蘇神社開運厄除賀寿大祈願祭
- 6月5日（日）
 - ▽あさぎり町天子の水公園花菖蒲まつり
- 6月4日
 - ▽人吉市梅園「梅狩り開放」
- 6月5日（日）
 - ▽「不知火海・球磨川流域圏学会」平成28年度研究発表会
- ▽日本の棚田百選「球磨村さんがつら田植え体験」
- 6月9日
 - ▽近美協「人吉グループ展」
- 6月12日



原爆投下の米大統領、ようやくの広島訪問。核廃絶を急ぐ時

「ノーベル平和賞を受賞して6年、オバマ大統領の広島訪問が実現。2つの折り鶴に思いをこめて核の悲惨さを目の当たりにした今、核廃絶への道を進んでほしい。」

ひろみつ…
げっかん・ぎびょう



八代「前川橋」付近での行商人



鶴喰からの行商人は、ナス・キュウリをはじめ、様々なものを
年中売りにきていた。(荒瀬)

行商人

なつかし昭和の写真館 ③

撮影／東儀一郎

集い



十条製紙の労働者倶楽部「清和荘」前。演芸大会時の写真

旧坂本村中心に昭和20年後半から40年後半までの出来事をカメラに収めていた故・東儀一郎さんが残した写真を鑑賞する。



昭和32年、熊本市内での展示会・サイン会のあとに荒瀬ダムに立ち寄った放浪の画家山下清。この頃、画伯は放浪していない。前を向いた写真が一枚あった。

ダムを眺める山下清画伯

球磨川大好き!



昨年の出発式

球磨川源流水リレー実行委員長 松田浩典

私が生まれ育った八代の町をゆったりと流れる大きな川、球磨川。「この水は何処からくるんだろう?」ぼーっと空想にふける癖のあった幼い頃、よく考えていた。

その頃の球磨川(前川)の想い出は、3つ上の兄やその友達と一緒にいったシンコ(コノシロの子)釣りだった。時期になると、現在の蛇籠排水樋管付近をバシャバシャとおそろしいくらいの大群でのぼってきた。鮎のコログシのような仕掛けを安い竿で精一杯遠くまで飛ばし、勢いよく竿をしゃくって糸を巻く。群れにあたると、ひと投げで2〜3匹は掛かった。その時の子どもたちは、かつおの一本釣り漁しながら、大興奮で竿を振り続けた。近所のノラ猫も僕らを応援していた。残念ながら、自分が食べて美味しかったという記憶はない。

しかし、小学校高学年になると「川は危険だから、川で遊んではいけない」と学校で指導されるようになった。また、部活も楽しく、球磨川への関心が薄れていった。それでも、真夏の3日間つづいた「八代くま川祭り」には、子ども踊りでカッパの仮装をしたり、イカダ競争、花火大会と賑わう球磨川へ出かけていた。いつかこの川の源に行ってみたいという気持ちはずっとあった。



球磨川源流の大冒険

私には『球磨川大好き!』と気持ちのいい笑顔で発するこの人たちがまた、球磨川流域の貴重な財産なのだと思えた。

ちょうどその時、荒瀬ダムの撤去で球磨川は注目されていた。ある時、荒瀬の道の駅さかもとへダムを見に行つた私は、偶然カワセミを見つけた。その美しい姿と鳴き声にすっかり魅了された。この小さな鳥も私の世界を大きく広げた。

以来、双眼鏡を首にかけて頻繁に川原をウロウロするようになった。見つけた時は、自作の「カワセミマップ」なるものに書き込むようになった。サギやセキレイなどの鳥も観察して楽しんだ。それから、身近な球磨川下流のたくさんの豊かさにも気づき始めた。巨大ウナギや川底を真っ黒い筋をつくって群れで上つていた鮎の話、前川のスズキ釣り、河口のシャク釣り、河口の夕日や、手作り力



紹介パネルと参加賞のお守り(左)



ヌーの中山さん、ミツクのマスター、写真家

との出会い等々、感動の連続だった。「球磨川を大切に思う人たちの感謝の心をふるさとを創造する次の世代へとつなげる」、その源流水リレーの願いが私の中にも湧き上がってきた。半ば強引に源流水リレーを引き継がされた私にも、八代くま川祭りとなつて広くメッセージを発信することができるのではないか。その小さな流れは、友人や源流水リレー

の仲間たちの流れと合流しながら、先輩たちの築いた川筋を淀みなく流れて大きくなつていった。キンキンに冷たい上流で泳ぐ人、車も通らない山道を疾走する人、長いサイクリングロードを自転車車で飛ばす人、転ぶ人。カヤックやカヌーで急流を下る人。「山羊のいる球磨川」で山羊のボスのような白柿さんからミルクとヨーグルトをこ



新実行委員会で作った旗。1日目は青井阿蘇神社にお参りしてゴール



源流水の入った竹筒を手渡しリレー



カヌーイストも協力

八代のメンバーを中心とした新たな実行委員会で毎回趣向をこらし3回開催した。ちゃんと予定時間通りに進んだことはない。昨年は台風がきた。でも、みんな笑顔だ。第20回となる今年も、源流水リレーは源流の森

をスタートして、球磨川を流れる水のように115km、2日間かけて河口の水島を目指す。八代くま川祭りでは、水島子供会さんと源流水の入った樽御輿を担いで祭りに登場する予定だ。もちろん安全第一。参加者大募集中。

昨年は台風のため、リレーできたのは50人程だったが、2回目の今年はたくさんの人にリレーしていただきたいと思っている。昨年は私の子どもも参加した。大冒険の記憶とともに、ふるさとの川の豊かさを心に育んでくれるように大切にバトンをつないでいきたい。

球磨川リレーは、山から海へ、川が好きな人たちをつないでいく。気がついたら、自分も幼い頃のわくわくする感覚で「自分の川体験」を取り戻しつつ、川好きな人間になっている。そのお陰で、活動もどんどん広がっている。「球磨川は日本の遊園地」をテーマに活動するNPO法人球磨川アドベンチャーズやつしらのメンバーになった。

そうしてあわただしい日々の中でも、いつだって思い出すことが出来る。今この瞬間も豊かな森の中を悠久の時を経てコンコンと湧きでる水源の美しい水を。その音、周囲の空気

に思いを巡らすだけで穏やかな気持ちになる。山と川と海水を巡る美しい調和がもたらす豊かさの中で生きる人と人の思いもまた、いつまでもつながっていくことを願う。

【まつだこうすけ。八代市】



八代市の水島でゴール

ウルメイワシの梅煮

料理・菓子・ワイン・チーズ研究家
宮内 祥子

ウルメイワシ（熊本ではオオメイワシ）



イワシは昔は大衆魚と言われ、安くて美味しい魚として人気者でした。全国各地の沿岸から沖合にかけて広範囲に生息していて、大きく分けて、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシの3種です。一番魚屋さんで良くみかけるのはマイワシだと思いますが、ウルメイワシもとても美味しいです。

今回の「梅煮」のウルメイワシは、やや他のイワシよりも生息域が外洋性です。一般的には丸干しなどで加工されることが多いのですが、産卵前の梅雨の前後のウルメイワシはマイワシに負けないくらい脂がのって美味しいです！

脂腺という脂肪膜に覆われている眼が、死後に潤んだように見えることから

ウルメイワシと呼ばれるようですが、熊本県では大きな目からオオメイワシと呼ばれています。

イワシにはDHAや血中コレステロール値を下げると言われているEPAが豊富で健康に良い食材として人気です。焼いても、煮ても、揚げても、刺身でも、和洋中どんな料理方法でも美味しくなる優秀な魚です！

梅は、消臭効果もあるので、魚の臭いが苦手な方にもぴったり。また、疲労回復、殺菌、抗菌作用があると言われています。塩気、酸味があるので、調味料としても優秀です。

「ウルメイワシの梅煮」作り方

材料 2人前

- ・イワシ 2尾
- ・梅肉 中4粒（加糖やハチミツの使われていないもの）
- ・水 300ml 位（イワシが隠れる程度）
- ・酒 50 ml
- ・昆布 3センチ程度
- ・片栗粉 少々

下処理

- ・ウロコがある場合は、包丁の刃を使って取り除く。
- ・頭を落とし、内臓、尾を取り除きます。
- ・歯ブラシで腹骨の血合いの部分、内臓の部分の血をしっかりと取り除きます。ここが美味しく炊き上げるコツのその1です。
- ・ボールに海水位の塩気の塩水を作り、10分程度冷蔵庫に入れる。

調理

- ①鍋にイワシを並べる。
 - ②梅干し、水、酒、昆布を入れて、中火にかける。
 - ③灰汁を取り除き、落とし蓋か紙をのせる。
 - ④10～15分、沸騰させないようにしながら煮る。
 - ⑤イワシに火が入ったら、取り出し、皿に盛りつける。
 - ⑥鍋の梅干しを取り出してほぐし煮汁に戻す。
 - ⑦、⑥に水溶き片栗粉を少し入れて、とろみをつける。
 - ⑧、⑤のイワシの上に⑦をかける。
 - ⑨好みで青紫蘇の千切りをのせて盛りつけ完成。
- ※魚は、マイワシやサバでも良い。
※薬味は青紫蘇の代わりにネギでも良い
※ほぐして、ご飯と和えてウルメイワシ丼も美味。
※水加減はイワシがひたひた程度
※加える日本酒は糖質が入っていないものを選ぶ事



【みやうち・しょうこ。Jasmin's kitchen & 魚食倶楽部代表、著書に「もっと知りたいチーズの本」「チーズを識る」世界文化社、「世界のチーズ」NHKなど。東京都



シリーズ ほいくのなかで描いた絵 ③

渡保育園（球磨郡球磨村）



社会福祉法人 渡保育園
球磨郡球磨村大字渡乙 763 番地
利用店員 80 名 ☎ 0966-33-0125
HP <http://www.kmbb.jp/watari/>
開園時間 午前7時～午後7時（延長保育含む）

子どもたちは、友達や自然との触れ合いの中で健やかに育っています。広大な球磨村運動公園に隣接する恵まれた環境を生かしながら、子ども同士・子どもと保育者・親が共に成長しあう保育をめざしています。



園児の製作 松江玲奈（3歳）



図② 坂本駅正面



図③ 待合室
換気口

ウィキペディアの平成12年（2000）の1日平均乗車人員は154人、同23年には41名と減少した。平成3年にはJR九州から八代市商工会坂

本支部が駅舎内を管理。平成20年11月からは完全無人化された。平成27年3月までは特急「くまがわ」、九州横断特急の停車駅であったが、この4月からは普通列車に快速ディーゼ

が2社あった。
駅の開業は旧鹿兒島本線の開業と同じ明治41年6月1日。当時駅長以下10名が配置されており、駅舎の構えも昔の風情を保っている（図②）。
駅舎本屋の奥行は渡駅・大畑駅と同

様の三間構造、中でも換気孔のレールデザインが官営の鉄道庁時代の線路マークを象^{かたど}っているのが特徴的である（図③）。昭和34年ピーク時の職員数は18名に増員、1日平均乗客数は650人となり、当初通過した準急「くまがわ」は昭和39年10月から停車（図④）、同47年3月には「えびの」号も停車している。



図④ 準急くまがわ停車祝（昭和39年10月）



連載その③ ー坂本駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一

坂本駅

坂本駅は鮎婦鉄橋を渡った球磨川河畔のすぐ北側に位置し、起点の八代からは11・0 kmの距離にある。途中、右岸には川線の産業遺産の一つ大正10年竣工の西日本製紙深水电所のレンガ造りが球磨川の川面に映える（図①）。また油谷川上流4 km



図① 深水电所

は人口1万9千人を有する十條製紙坂本工場として栄えたが、現在は相対式のホーム2面2線を有するのみ。だが0番線の貨物用ホーム2連はしっかりと残っている、当初は貨物取扱業者

には西日本製紙鮎婦返電所（昭和63年廃止）が在る。これらは新緑と共に球磨川水系の水量の豊かさの現われの一つでもある。
坂本村は昭和36年に上松求麻村・下松求麻村・芦北郡の百済来村が合併したもの。駅はその中心地坂本町松崎（標高24 m）にあり、2005年に八代市と合併、現在の地名は八代市坂本町坂本と変わっている。戦後

ル列車と「いさぶろう・しんぺい」号、SL人吉号が停車(図⑤)。ホームでは「このしろ寿司」「焼きサバ寿司」も臨時販売される。

かつて駅構内は通過線を入れて5線あったが通過線は撤去され2線となった。駅舎東側(山側)に



図⑤ SL人吉号と貨物ホーム(右)



図⑥ 坂本駅構内(航空写真)



図⑦ 旧十条製紙工場(上方)

は昭和27年には十条製紙と駅を結ぶ1055mの貨物側線があり、専用DL(渡辺・加藤製)が牽引していたが昭和58年4月に廃止された(図⑥)。この線路跡を辿れば坂本隧道

へ抜け、その先には昭和40年代まで栄えた十条製紙坂本工場跡(図⑦上方、△は貨物側線、図⑧)、現在のワイワイパーク(図⑨)へと続く。

当時この区域は生協・映画館・パ

チンコ・飲み屋街で賑わっており、中でも製紙会社御用達の友恵屋旅館のアユ料理は評判であった。

九州鉄道時代、人吉まで開通する



図⑧ 当時の工場

以前の明治39年には、すでに油谷川沿いの九州製紙工場の紙原料を運んだ九州鉄道時代の専用線があり、八代・坂本間は八代・人吉間の開業以

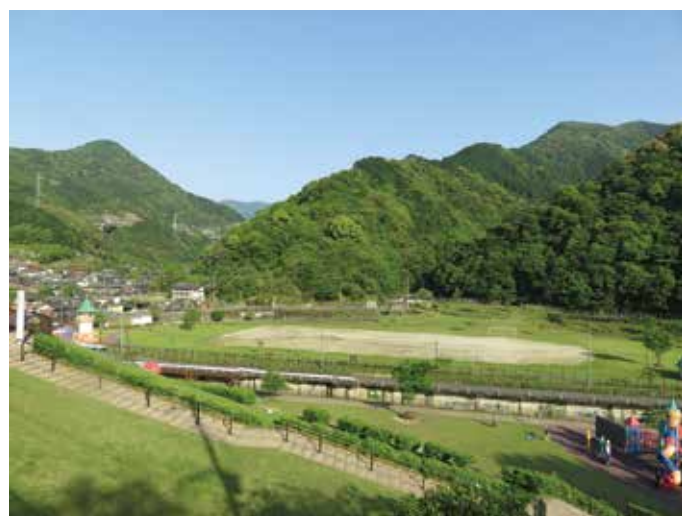
前にいち早く開通している。

大正4年の田山花袋「日本一周」の言うように、この球磨川沿線の特徴は段駅を過ぎてから、原女木辺りから急に「汽車は球磨川の谷へと入って行く」ことである。

さらに花袋曰く、「球磨の谷は一番大きく、そして一番深い」と。続けて「汽車が出来たために、例の名高い球磨の川舟がすたつて了つたので、今では、唯、汽車で旅をして行つては、完全にその山水の姿態を見ることが出来ない。それが惜しいと思う」。この

文言は、鉄道の路線、すなわち隧道や切り通しからは球磨川沿線の風情を存分には楽しむことはできないという含

図⑨ 製紙工場跡(ワイワイパーク)



みである。この先の球磨谷の勝景を楽しむためには、やはり川舟に乗って川

面から横谷や山岳を眺めるところに一番の醍醐味があると言っているのである。ぜ

ひ舟からの風情を味わってみたい。

ここに1枚の絵葉書がある。この



図⑩ 当時の絵葉書（舟運と鉄道）



図⑪ 今と昔（図⑨）の比較（SL人吉号）

ように以前から坂本村は球磨川舟運の要であり、人吉・八代間の停泊地でもあった（図⑩）。明治22年（1889）には川舟運送会社が設けられ、人吉・八代間の定期船が通い、坂本の上流では藤本・葉木・海路・吉尾・神瀬など9か所の着船場が在ったのと。川舟には荷船（製紙会社舟）、

平田舟（貨客併用川下り）、鮎掛舟（小舟）、渡舟、砂利舟などがあり、この油谷川合流点付近（図⑦↑）は塘尻と呼ばれ、会社舟の荷揚場（図⑫）でもあり、流域でも賑わった船着場であった。その光景がこの絵葉書にもは

きりと見て取れる。

この絵葉書の廻り舟の船頭が、向こう向きに製紙工場用の貨物を押上げる機関車をじつと見つめる様子は、彼らの仕事、荷舟の将来の憂いを表しているように思うのは少し読み過ぎかもしれない。この鮎掛鉄橋付近の昔と今を比較してみると、当時の貨車や帆掛け舟の代わりに、観光列車のSL人吉号が現在の花形であることが象徴的である（図⑪）。



図⑫ 塘尻の荷揚場

駅の南西6kmの山奥には九州自動車道の坂本パーキング。駅前には坂本公民館、八代支所等の施設があり、その西側は犬帰ノ瀬がある球磨川に面している（図⑥下方）。駅前の坂本橋を渡り対岸の国道219号線には道の駅「さかもと」、八童小学校、坂本中学校がある。球磨川はその網

線ノ瀬で大きくカーブ、現在解体工事中の県営荒瀬ダムはその先である。

〈参考資料〉

- ・「坂本村史」平成2年12月坂本村史編纂委員会 ぎょうせい印刷
- ・「田山花袋日本一周（中編）三十二球磨川の谷」2007年東洋書院
- ・「目で見る八代・水俣・芦北の100年」2001年郷土出版社
- ・前掲 各駅停車「熊本県」昭和58年
- ・前掲「くまもとの駅と港」昭和58年
- ・前掲「九州830駅・各駅停車」1993年
- ・前掲「時代と共に」肥薩線100周年シリーズ平成21年
- ・前掲「肥薩線の近代化遺産」2009年
- ・前掲「空から見たくまもと」昭和52年
- ・くまも歩MAP（くまもと球磨川ウォーキングマップ）豊かな球磨川を取り戻す会
- ・インターネット・ウィキペディア資料
- 前訂正…19頁、図⑫の説明、萩原土手の3600形機関車↓5700形機関車

柳人があじわう漱石俳句

— ③ —

いわさき楊子



今年には漱石没後100年の年にあたる。在熊4年3カ月の間に詠んだ1000以上の俳句の中から選んだ句を柳人としてあじわうことにする。

銭湯に客のいさかふ暑かな

(漱石29歳)

すゞしさや裏は鉦うつ光琳寺

(漱石29歳)

「暑」も「涼」も夏の季語である。こんなところにも日本文化のわびさびを感じる。表裏一体、陰陽和合などというちよつと大げさな四字熟語を思い出す。

掲句はどちらも同じころ、友人・正岡子規へ評を受けるべく送った句稿のなかにある。1句目は描写により暑ぐるしさそのものを詠んでい

将来は、ホタル舞う民宿も

山江村ヤマメ生産組合代表 横谷俊治さん(62歳)



溪流の女王、幻の魚といわれるヤマメの正式な名称はヤマメ系サクラマスで、『降海型』『河川残留型』『湖沼型』の3つに分類される。山江村の養殖ヤマメは球磨川水系万江川の上流域の山間にある静かなところで育てられている。



人吉市内からおよそ20km、球磨川水系万江川の支流・宇那川の上流の山あいにある「山江村ヤマメ生産組合」の養殖場はある。宇那川の水をそのまま使い無投薬で、採卵から受精・ふ化・出荷までほぼ一人でこなすのが横谷俊治さん。屈託のない笑顔で出張販売先のイベント会場でも人気者だ。

採卵から出荷まで約一年かかる。100グラム前後、22〜23センチがめ



どで、年間を通して出荷している。1kg2500円(＋送料)で全国発送もしている。昨年は約5万匹を出荷、今年は6万匹と意気込むが、熊本地震の影響を心配してか顔を曇らせた。毎年5〜10月には「ヤマメのつかみ取り」などにも取り組み忙しい日々を送っているが、「この養殖場近くにホタルが舞う民宿を作るのが夢」と日焼けした顔で語った。



イベント会場で愛嬌をふりまく横谷さん(上)。養殖場の下流にある「ヤマメのつかみ取り」が出来る釣り堀(右)。

山江村ヤマメ生産組合

〒868-0092
熊本県球磨郡山江村大字山田戊 1375
電話・FAX 0966-28-2208
<http://www.yamaemura-yamame.com/>

る。2句目は暑さを句に楽しむ余裕さえ感じる。エアコンや扇風機などなかった時代には、かすかな風や色や音で夏の暑さを往ながら暮らしていた。「すゞし」の仮名表記も、鉦の音も、その音を連想させる光琳という韻もみな響きあつてすゞしげである。

光琳寺は漱石が鏡子と結婚し、住み始めた家の裏にあった。いまはないが、熊本下通につながる通り名(光琳寺通り)として残っている。



なんのかの言ってもエアコンをつける 楊子
涼しげな音させながら不燃ゴミ 楊子

【いわさき楊子 川柳誌「裸木」編集人、熊本市】



雨の日も駅前に立つ定吉

人吉観光案内人物語

住 吉 則 昭

定吉が行く

— 3 —



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博

職務質問

人吉駅前の観光客は3分余りのカ
ラクリ時計を『あら』『いやあ』
と喜んで観ていたが、男は少し離れた
所でカラクリ時計ではなく笑顔の観
光客たちを観ていた。数年間のストー
カーにより、この男は秀でた観察力の
持ち主であることも判った。

カラクリ時計が終わると男は、構
内の片隅に置いていた新品の電動機
付き自転車を押して横断歩道を渡り
トキメキ通りの歩道へと入った。自転
車のハンドルの前には買い物カゴが取
り付けてある。カゴの中にはステンレ
ス製の火バサミとゴミ袋が入れてあつ
た。電動機付き自転車を押しながら
火バサミでタバコの吸殻や木の葉を拾
いゴミ袋に入れている。腰をかめる

必要がないように、長い火バサミを
持っている。良く考えたものである。
しかし、真新しいピカピカの青い電動
機付き自転車に、作務衣と雪駄とい
う組合わせは滑稽だった。このことも
男の面白いところである。どんな格好
でも自分が決めた服装であれば誰に
見られていようが、何と言われよう
が平気であることは今も変わらない。
歩道を行く男の背後には、人吉駅構
内に停車していた熊本県警のパトカー
がゆつくりと近づいていた。

20メートル程ゴミ拾いを進めた男
の横にパトカーが停まり、助手席のド
アが静かに開いた。精悍で鍛え上げら
れた躯体の警察官が男に声をかけた。

男には警察官に対するトラウマがあ
る。大学時代の夏休みに実家の在る
人吉市へ帰省する日、羽田空港に到

着するなり警察官2人に呼び止めら
れ職務質問を受けたことがある。当
時は安保闘争も収まりつつあったが、
高校生だった私には警察と学生の間に
は目には見えない壁があるように感じ
ていた。おそらく呼び止められても
仕方のない身なりであつたと想像する
のだが、男はその時の身なりについて
は今も語らない。

取調室に入ると警察官は、『今から
どちらへ行かれますか?』と尋ねた。

『実家の在る熊本へ帰りますが、何
か問題もありますか?』男は不機

嫌そうに答えた。すると警察官は男
が持っていたボストンバッグを指差し
『このバッグを開けて中の品物を確認
させてもらえませんか?』と言った。
男は、しばらく時間を置いて『ダメで
す。見せられません。』と答えた。そ
れからの押し問答と警察官の対応が
トラウマを生み、警察官を見たら背
を向け離れて行く様になった。男は、
自分の恥部を見られたと今でも思つて
いる。警察官は何か危険な物を所持
しているのではないかと疑っていた。
学生紛争には、この男のようにひ弱
そうな学生も多く参加していたので
目を着けられた男には警察官を納得
させるだけの説明が必要であつた。男
はバッグの中身を見せないと状況が前
には進まない判断し、『このバッグの
中には、実家に帰ることを決めてから

溜めた洗濯物が入っています。です
から、見せられません。』洗濯物ば
かりであれば、トラウマを開けて見せて
下さい。中が洗濯物ばかりなら、す
ぐにでも此処から出て行きますよ。』
と言われても、半月分程の洗濯物を
詰め込んだバッグを開けて警察官に見
せる勇氣はなかった。しかも、最後に
洗濯物を詰め込んだのは3日前であ
る。想像するだけでも身震いに襲わ
れそうである。

刻々と時は過ぎ搭乗時間が迫まっ
たために、男は思い切つてトラウマを
開けて洗濯物をテーブルにひっくり返
した。その時の警察官たちの対応が
男の警察不信に繋がってしまった。声
は出さなかつたが『ワッ』と言うと
同時に鼻をつまみそうな雰囲気だつた
のだ。一瞬でテーブルから離れた所に

記憶の落し穂

その③

絵と文／坂本福治

良輔筆 私の顔



立った警察官は、『洗濯物ばかりだと確認しました。ご協力ありがとうございます。ご迷惑をおかけしました。搭乗時間が迫っていますので、早く洗濯物を片付けて搭乗手続きをなさってください。』と、いかにも急いで取調室から出て行けという態度であった。自分の物である事には間違いないが目まいを起こしそうな洗濯物を、湧き出しそうになる涙を抑えバッグに詰め込んだ。文句の二つや二つも言いたい気持ちだったが、取調室から解放された安堵感と搭乗締め切り時間が近づいていたこともあって、スキップする様な気持ちで搭乗手続きカウンターに向かったとの「トラウマ事件」の話聞いたことがある。

『此処で何をしていますのですか?』
パトカーから降りた警察官は、男の

後ろから声を掛けた。警察官を見た男の目はパツパツと大きく開き、一歩後ずさりをして驚いている。私は男と警察官の会話が聞こえる位置まで近づき聞き耳を立てた。男の体は震えていた。今はトラウマの事を知っているの理解できるが、その時はやはり、この男には犯罪歴があったんだ、と思った。男は、『この通りは観光客が多く利用しますので、きれいに掃除をしているところです。』と震えた声ではあったが丁寧に答えた。『昨日も駅前で観光客数人に話しかけていた様ですが、何を話していたんですか?』男は、またもや警察官に目を付けられていた事に驚いた様子である。

男は思ってもいなかった様だが、誰もが不審者と思う身なりであったし、新品の電動機付き自転車を押しながら

らゴミ拾いをしているのだから当然の成り行きでもあった。遅れてパトカーの運転席から降りてきた警察官も男の話を聞いていた。男は『観光客の方には、どちらから来られましたか? カラクリ時計を楽しんで下さい。』と話していました。』と正直に返答した。遅れて近づいた眼光鋭い警察官が『お宅の免許証を見せて下さい。』と言った。男は素直に作務衣の懷から免許証を取り出した。

続いて警察官は、私の期待通りに『ご職業は何んですか?』と尋ねた。私は『栗べんとう』を堪能できなかった悔しさを、この警察官の一言が補ってくれた事に感謝した。



【とりかい・ひろし。人吉市】

画家になんたくて、憧れの上京に手を貸して下さったのは那須良輔さんだった。それからいろいろあって何十年後、鶴屋で個展が開かれた。

新聞に「先着二十五人の顔を描かれる」とあった。子供達に内緒で熊本市に行った。ところが申し込みが多く、予定していた帰りの特急には間に合わないことを見た。「アー、間に合わない」と天を仰いだ。すると、受付の画家が「そんなら一番にしてあげましょう」とまるで神様である。

天にも昇る思いで、その色紙を抱いて特急に乗った。途中の駅から、海の生き物をバケツに入れた少年たちが乗って来た。他の乗客同様、私もそれらを見て何も気づかなかった。車内放送が「次は大牟田に止まります」と言うではないか。逆方向である。家から遠くなるのを我慢して大牟田まで行き、急いで帰りの特急に乗った。内緒は成功。

似顔絵は墨の線が太く、縮小して印鑑にした。那須画伯の描かれた顔の絵は世に多いが、印鑑になった例は他に知らない。

【さかもと・ふくじ。画家、人吉市】

肥薩線から消えた

「くまがわ号」に感謝

福井 弘

長年にわたって郡市民の“足”として活躍し、親しまれてきた特急「くま



開通日当日の準急「くまがわ号」
(昭和34年4月1日、人吉駅にて)

がわ号」が今年3月のJRダイヤ改正で姿を消した。準急でスタートして急行、特急と、まさに出世魚のように格上げされ、急流球磨川沿いを走り続けて50有余年。時代の流れとは言え、肥薩線を代表する列車だっただけに「くまがわ号」の廃止は寂しい限りである。ここに鉄道愛好者の一人として「くまがわ号」を偲び、私が知りうる同列車誕生のいきさつと、目の当たりにした開通当日の様子を振り返ってみたい。

戦後の混乱も落ち着きを見せ始めた昭和20年代後半、生活にゆとりが出来ようになると人々はレジャーに目を

向けるようになり、人吉市は「温泉と球磨川下り」をキャッチフレーズに観光客の誘致に力を入れ始めた。しかし当時の交通事情を見ると、国道はまだ未舗装でしかもマイカーは夢の又夢であり、バスの運行はあったものの輸送力は鉄道には遠く及ばない。その鉄道も八代から球磨川沿いの肥薩線は、トンネルが多いうえに蒸気機関車（SL）の煤煙に乗客は悩まされ、それが誘客のネックとなっていた。

そこで市の観光担当課と旅館業者が中心となって「肥薩線快速気動車運転促進会」を発足、鉄道当局への陳情が効を奏してか人吉―門司港間に気動車（ディーゼルカー）による快速列車の運行が決定した。北九州や博多方面からの観光客輸送はもとより、人吉球磨から博多方面への日帰りも可能なビ

ジネス列車としての期待感は大かった。

昭和34（1959）年3月13日、博多―人吉間で試運転が行われた。当時の新聞は「沿線住民はその速さに驚いた」と報じている。試運転から半月後の4月1日、郡市住民らが待ちに待った開通の日を迎え、準急「くまがわ号」が華々しく登場した。車両は優等列車用として製造されたキハ55形（エンジン2基搭載）と、キハ26形（同1基搭載）それぞれ2両ずつの計4両編成で、当時使用していた普通列車の車両とは格段の差があった。

人吉駅一番ホームに停車した列車の先頭と最後部の車両には、球磨川の流れを图案化した白い三本の緩い曲線に「くまがわ」と書かれたヘッドマークが誇らしげに取り付けられていた。



球磨川沿岸をゆく8両編成の急行「くまがわ号」
(昭和58年8月3日、那良口～渡間)

ホームには多数の関係者や報道陣らで賑わっていたが、鉄道愛好者は私ひとりであった。吹奏楽団の演奏と共に定刻に発車、五色のテープをなびかせながら目的地へと向かった。

開通から半月後には二等車キロ25形1両が入り、準急にしく5両編成となった。さらに昭和45（70）年7月1日から7両編成の全車冷房化が実現し、昭和53（78）年10月2日からは堂々8両の長大編成となったが、この頃が「くまがわ号」の絶頂期であったろう。

しかし昭和59（84）年2月のグリーン車廃止をきっかけに、ダイヤ改正ごとに下るべ落しのように車両編成数は減少の途。終焉の今春には「特急」になったとはいえ、わずか2両編成だったことは皆さんご存知の通りである。

半世紀以上にわたって郡市民の足として活躍した「くまがわ号」にご苦勞さん、ありがとうございますとお礼の言葉を捧げたい。

【ふくい・ひろむ。人吉市】

天井裏の生活者

2

久馬 凌

電灯が点いている？

建物には誰もいない。施錠も完璧なはずだ。それにもかかわらず、建物内で電灯が点いている？

誰もいないことを5人の警官で確認して施錠もしたのだ。いったい、どういうことだ？

ふたたび、八代署に電話した。警察は、捜査チームを編成する、そのため一時間ほど待つて欲しいと告げた。電話を切り、僕は急いで現場に向かった。

確かに、電灯が点いている。

不思議な感覚におそわれた。そして、そのまま、現場で警察を待った。

一時間後、警官たちは現場近くに到着した。20名ほど

のチームであった。全員、黒い服を着用していた。責任者がメンバーを集め、指示を与えた。そして合図した。

メンバーは一斉に散った。それは、どう考えても、類似のケースを想定して特別の訓練を受けた者たちの行動そのものであった。予行の練習を積み重ねたものたちだけができるスキのない動きだった。八代署のような小さな警察内にもそういうチームが存在していたのだ。家のなかに突撃して犯人を捕獲する者、犯人が逃げ出した場合にそなえて周囲を警備する者など、それぞれの役割はあらかじめ明確に決まっていた、訓練どおりに行動しているのだった。

凶器をもった犯人が立てこもっている恐れがあるなか、彼らは冷静であった。暗闇のなか、彼らは音をたてず行動した。なにもかにもが静かだった。

30分ぐらい経過しただろうか。「犯人はいません」との声が聞こえた。突撃メンバーは部屋のすみずみ、屋根裏のすべてを調べたけれども、家はもぬけの殻で、ネズミ一匹いないといった。突入と同時に、犯人は逃亡したのだろうか。その疑問に、警官たちは首を振った。もう一度、念入りに搜索したが、犯人がいない事実に変わりはなかった。逃亡した形跡もみつからなかった。家の周囲も捜査したが、手がかりになるものは何ひとつ見つからなかった。それ



でも確かに、電灯は点いていた。なぜ、電灯は点いているのか。考えれば考えるほど、謎は深まっていく。僕はすっかり混乱していた。そのときの奇妙な感覚を僕は表現できない。すべてが混乱していた。

それでも時間は過ぎていく、犯人がいない場所に警察のチームは長居しなかった。頃合を見計らいながら、彼らは引き上げた。数人の警官（私服）が最後まで残った。その数人も、翌日、再度調べると言い残して八代署に戻った。

屋根裏の布団をみたときから、僕は普通でなくなっていた。その夜は、いつそう興奮し、一睡もすることなく朝をむかえた。「屋根裏の布団」の映像が頭にこびりついたままであった。

警官（私服）たちは、約束とおり、朝8時に、現場にやってきて、直ぐに現場検証を再開した。近隣住民に対する聞き込みもすすめた。

見なれない中古の自転車が現場近くに放置されていると住民たちは警官たちに伝えた。そのほかに、新しい情報が出てこなかった。その自転車にしても、いつからあつ

外来語から学ぶ英単語 (3) …… 藤原 宏

ティップ・ティッピング・ティッパー・トップ・トッピング・トッパー
tip topping tipper top topping topper (367)

tipping (ティッピング) は動詞「**tip** (ティップ)・先を切り取る・先を飾る・傾ける・(傾けて) 捨てる・チップをやる・情報を与える・軽く打つ」の動名詞形で、「**tip** すること」として、多くの使い方があります。例えば、**No Tipping!** は「ごみを捨てるな!」の掲示です。車体を傾けてごみを捨てる「**tip truck** (トラック)・放下車」と関連します。

tipper (ティッパー) は、「**tip** する人・物」のことで「チップを与える人・傾ける人(物)・放下車・密告者・(傘などの先に) 金具をつける職人」などを意味します。

topping (トッピング) は、動詞「**top** (トップ)・頂点にある・かぶせる・頂上に登る・超える・先端を切り取る・揮発成分を蒸留する・仕上げをする」の動名詞形で、「**top** すること」を意味します。例えば、料理用語のトッピングは、「仕上げとして上に載せるソース・パン粉・クリーム」などのことです。

topper (トッパー) は、「**top** する人・物」のことで「組織の上層部・箱詰めが一番上の上質のもの・女性が羽織るジャケット (トップコート)・男性用トップハット」などの意で使われます。

エイジ・ティーンエイジャー・エイジング・エイジド
age teenager aging aged (368)

age は年齢の意から成年や老年など一生の一時期を指すようになり、さらに一つの世代や歴史上の時代をも意味するようになりました。

old age は老齢、**the Stone Age** は石器時代、**ageism** (エイジズム) は高齢者差別の意です。

「**teenager** (ティーンエイジャー)・10代」は語尾に「**-teen** (ティーン)・**ten**」の意がつく **thirteen** (13) から **nineteen** (19) までの少年少女を指します。

age には動詞として「年をとる・老ける・(酒などが) 熟成する」の意があり、**aging** (イギリスでは **ageing**) は、「**age** すること」即ち「老化・(酒・チーズなどの) 熟成」の意です。「**an antiaging drug** (アンティエイジング ドラッグ)」は老化防止薬のことです。

aged は動詞 **age** の過去分詞形で、「年たった・熟成された」意の形容詞として使います。**a boy aged 10** は「10歳の少年」、**Died aged 80** は「享年80歳」、**an aged couple** (カップル) は老夫婦の意です。**the aged** は集合的に老人全体を指し、**medical care for the aged** は「老人医療」、**Respect - for - the - Aged Day** は「敬老の日」のことです。

たのか、分からなかった。都会とちがい高齢者の住む田舎である。そういう田舎では、古ぼけた自転車にあれば、それとめない。見たところ、ずいぶん以前から放置されていたように思えた。人間の記憶は曖昧である。新車ならともかく、錆ついた自転車の記憶は残らない。警官たちも、その自転車を調べたけれども(調べたというよりは、眺めたにちかい)、有力な情報であると考えなかった。それよりも天井裏にあった布団などの確認に力を入れた。調べたところ、大半のものは、その家のものであった。叔父の急死で空家になっていたけれども、その家には新しい布団や食器があった。ある程度の食材も置いてあった。冷蔵庫も使える状態のままであったし、ガスも使えた。日頃は住んでいないけれども、その家は、いつでも人が住める状況にしていたのだ。犯人は、そうした事情を利用したのであった。

ただ、この犯人は居間や台所を利用せずに、布団などを天井裏に運び、そこで生活した。床下でなく、なぜ、天井裏を選択したのであろうか。天井裏はどうみても不安定である。脱出しにくい。

遺留品から、犯人が天井裏で焼酎を飲み、ラーメンなどを食べていたことが分かった。それにしても、どうやって、布団などを天井裏に運んだらうか。天窓の大きさを考えると、不可能におもえた。天窓の大きさとフロアリングの足跡から、身軽な細身の犯人像が浮かんだ。そうだとすると、天井裏に布団は運べるように思えなかった。単独犯でなく複数犯ではないかとの意見もでた。

そのあたりのことを警察は詳細に調べるだろうと僕は予測した。しかし、そうではなかった。そうしたことを調べても犯人を特定できないと考えたのか、捜査は予想外に早く終わり、未解決のまま事件は終了しようとしていた。僕も深く考えなくなかった。そして、事件を忘れた頃に、電話が鳴った。宮崎県警からであった。犯人を逮捕したというのである。

宮崎県警が犯人を逮捕？
いったい、どういうことだ？

【きゅうま・すぐる。八代市】

「田舎」とはなにかを 田舎に住む僕が考えてみた

亀田 洋

旧坂本村鮎帰地区川原谷（現八代市坂本町鮎帰ほ）
僕が生活している集落の名前である。

僕が、そこで生まれ、育ち、いまそこで暮らしている。

考えてみれば、すごい地名だ。鮎



も遡上をあきらめる（物理的に遡上できない）ほど奥深い山中の谷筋という意味の地名のようにみえる。「鮎も帰る」って、いたい、どんだけ田舎なんだ。旧

坂本村自体が田舎だけでも、その旧坂本村のなかの「奥地」に属するとうことか。「川原谷」が「ほ」になっているのも気になる。

それにしても、田舎って何だろう…

そこで「田舎 意味」と携帯電話に検索してみた。すると、

「都会から離れた所 人家が少なく田畑の多いところ」
とでた。

「確かに！」とおもえる解答だ。けれど、よくわからない。しよせんは、携帯電話の国語辞典的回答で、都会から離れているかどうか、人家が少ないかどうかは生活の質とは関係がなく、田舎とは、なにかをなにも教えてくれない。都会から離れていても人家が少なくても、不便でも不自由で

ないのだ。

「田舎者」は「田舎に住んでいる者。田舎の出身者」ほどの意味だろうか。純朴といったプラスの意味も含まれているけれども、全体として、マ



地元の運動会にて

イナスイメージがつきまといっている。都市Ⅱプラス、田舎Ⅱマイナスのイメージがそこにはある。けれど、そうだろうか。そのイメージは正しいのだろうか。

都会に暮らしているからといって生活が豊かだと誰も思わない。いくらお金を出しても購入できない「たからもの」は沢山ある。すべてを貨幣で計算する考え方はどうみてもおかしい。

高校卒業直後に、僕は結婚した。いま、3人の子供がいる。子育てしていくなかで、感じていることを述べると、まずは何といつてもこの素晴らしい大自然の存在だ。

春には桜が満開に花を咲かせ一年の始まりを教えてくれる、夏には真っ

黒に日焼けするまで思いっきり泳げる川があり、秋には素晴らしい紅葉と地域一丸となつて取り組む運動会がある。冬は冬らしく家族全員で雪を楽しむことができる（たとえば雪合戦など）。これって、けっこう、贅沢です。

都会にも春、夏、秋、冬はあるだろうけど、田舎の自然は都会の自然とは質的にちがうのではなからうか。

観光地になるような場が僕たちが生きている場である。「豊かな自然の地」として観光の場所になっているような場で、僕たちは生活しているのだ。そして大自然のなかで育つとき、子どもよく育つ。

交通面で不便ではないかという人がいる。しかし移動中の車内は家族との大事なコミュニケーションの場ではないか。コンビニがなく不便ではない

かという人もいる（旧坂本村にはコンビニはありません）。しかし、コンビニに依存した生活こそ不便でないか。

いま僕は33歳である。若輩者である。あれこれ申し上げることは僭越であろう。暮らしを語るには若すぎる。

しかし、それでも3人の子どもの父親

である。子供たちを育てなければならぬ。住んでいる地域は小さな社会である。小さくても、その社会で生きていく。先輩方のアドバイスをいただきつつ、社会の役にたたなければならぬ。

携帯電話で、「都会」を調べてみた。

「人口が多く商業がさかんでその

地方の中心となっているまち」

とでた。正しい説明であろうが商業だけで社会は成り立たないであろう。中心は円周を基礎にするだろう、円周のない中心は存在しないだろう。そう思うのです。

【かめだ・ひろし。林業、八代市坂本町】

郡築干拓の農業

③

磯田 毅

前号で述べたように、日本人が主食とするコメは農業経済を支える文字通りの基幹作物であると同時に、日本の気候や地理に合うとても合理的

な作物です。しかし、①で指摘したように全国や県でもコメの産出額は、畜産や野菜に抜かれてしまっています。郡築の場合はもつと顕著で、平成

6年の4億7800万円（17・5％）から同14年には3億2200万円（16％）に減っています。それ以降の資料はなく推定ではありますが、蘭草栽培の激減（10億円→1億円未満）と同時にコメの経済的地位はその後も下がり続けています。その代りに平成7年に10億円だった野菜（トマト・露地野菜）が大きく台頭し、現

在では80億円位に達していると推定

されます。現在ではコメの売り上げが4％程度でコメに対する農家の期待は少なく、トマトを中心とした野菜に偏重するという農業地帯になりました。ちなみに我が家の場合でも同じくコメは売り上げの3％しかありません。郡築の農業は経営的には成功しているかに見えますが、単作経営の脆弱さは以前より増しているのです。このように主食のコメが何故経済的な基幹から外されたのでしょうか？

現在、コメは高い関税（1 kg

341円の従量税）によって守られて

います。しかし、ミニマムアクセス（MA）米という輸入義務があり、毎年78万ト（年間消費量の約10％強）のコメが輸入されているのです。国内で生産調整という減産をしている中にMA米が重なる訳ですので、在庫が膨れて価格の下落につながっているの

です。

TPP（環太平洋経済連携協定）で米国と豪州に関税維持の代わりに約13万トのコメ輸入を約束しました。関税は守られても（ただし7年間）、恐らく農家のコメ離れは進むでしょう。これまで黙々と続けられてきたコメ作りは無くなって行く運命なのではないでしょうか？ 規模を拡大すればやって行けると政府は言いますが、これまで多くの農家が存続することで支えられてきた集落や自然環境は、農業者を減らすことで成り立つ大規模営農組織や大型農家だけでは到底支えることはできないでしょう。私は命を支え農地の生産性を支える「稲作り」がもつと注目されることを願ってやみません。



昭和35年頃の三番町のハウス風景



郡築農協トマト部会の朝日農業賞受賞を伝える昭和44年9月21日の新聞記事

【いそだ・こわし。農業、八代市】

「おどましらん」に拍手喝采

前田 一洋

大うけした黒肥地保育園児の球磨弁劇

多良木の町とゑびす様

毎年、十月の下旬に行なわれてきた多良木町の通称「ゑべっさん」祭りは、二十と二十一日の両二日間にわたって催される。もう一つの「天神さん」と共に、古くからこの地方のメインイベントとして、親しまれてきた。

今でこそ聊かナリを潜めてはいるものの、かつての多良木町は木材や

多良木の人たちは親しみを込めて漢字ではなく、「ゑべっさん」とひらがなで呼び慣わしてきた。ちなみにゑびすの「ゑ」は旧仮名遣いで今の「え」、恵比寿様の「恵」からできたのだ。

観客が「砂かぶり」に前進

かくて祭りの当日、神社境内から会場となる役場前一带には懐かしい露天が軒を並べ、神輿の行列に続いて踊りや各種のパレードが続く。そして広場に設えられた舞台では、次から次へと楽しい出し物が人々を喜ばせる。

そうしたプログラムの中に、黒肥地保育園児たちによる、球磨弁劇もあった。これは言語活動をより豊かなものにしてやろうと、園長の鍋田まゆ先生の発案。その脚本を依頼

木炭をはじめとする林産物、さらには広大な水田から穫れる米や農産物の集散地として、人吉とどっこいどっこの殷賑を極めていたのであった。つまり第一次産業である農林業の“元氣”は、当然のことに商店街を次々と生み育てていった。あの延々と続く「ヘコ町」が、あらゆる商店で埋まっていたのである。ことに、衣類や飲食業は盛んで、料理屋が軒を並べ、「検番まであつて昼の日中から三味線太鼓の音んしおったとばい」というほどであった。そうした商売の神様が恵比寿様。

されたので、園児も知っている昔話の会話部分を球磨弁になおして上演したのであった。

この舞台は数年続いたのであるが、二年目からすっかり大の人気プログラムになった。それで「ただ今から、黒肥地保育園の皆さんによります

：」の場内アナウンスがあると、それまで遠く離れて観ていた人たちが一斉に前進、みんな「砂かぶり」に集まってきた。

“転るうで笑う”ほど

「おどましらん、ふとさや。ばあさんそのモモはどぎやしたとオ」「このモモなア、川の上ん方からどんぶらこつこすつこつこ、ちゅうて流れてきたとば、おどんがひるうたとた」「そのよに太かモモは初めて見た」「中にや珍しかもんのひやつとつかもしれん」「じやつなア、包丁で切つてみうか」

こんな会話が頑（がん）くない園児の俳優さんの口から飛び出すのであるから、もう会場は拍手喝采。そこが畳の上であったならば、それこそ“転るうで

笑つて頂いたことであろう。

「おろう、あすけウサギしゃんどもが寝とるぐたる」「ほんとん、ぐーぐーゆうて寝とんなるばい」「カゼどもふきないちゃんならんで起こしてやろや」「やー起こしてやろい」

「ウサギしゃーん、こぎゃんとこれ寝とればカゼふくばい」「おろ、カ



ゑべっさん祭りでの黒肥地保育園児たち



球磨弁劇「にぎりめしコロコロ」

メちゃんたちじゃら。いつのはじゃ追
い付いたとな」「おどま足の遅かで、
やつとで今来たばかりだ」「なしゅ
だまつて先に行かんじやつたとオ。そ
すればおまいどもが勝ちじゃつたと
これ」「かけくらんごして行くとも
よかるいどん、高山はもうじきじゃつ
で、一緒に歌うたり話したりして
行くとも楽しかかもしれんな」「ほ
んとん、そっちの方がよこりゃ楽しか
うか」
中には、このようにウサギとカメ
の話の筋を「競争」から「協調」へ
と替えてみたり、舌切りスズメのば
あさんが、もし心優しい人であった
なら、どんなストーリーになつてい
たか、そうした点にも配慮して脚本
を書いた。

そして、これから先が肝要なところ
だが、実際のせりふの言い回しや
仕草については、園の先生ではなく
て、家か近所のお年寄りに教えても
らうように配慮していらつしやつたこ
と。そのために「糸つさん」の時には
あれほど大きな拍手喝采が来たので
あろう。

お年寄りの伝授力
保育園や幼稚園では、園児たち
が本来持つている才能を掘り起こし、
さらにその成長を促すために独自の
活動をしていらつしやる。太鼓の演奏
で大人顔負けの連打を見せたり、見
事な鼓笛のマーチングを披露したり
して。
さらにはその地域独特の「文化」
を素材として、園児たちの成長に役

立て、ひいてはその継承者としての
素地をという、まことに遠大な指導
目標を設定していらつしやる所も。
例えば錦町一武の「福島保育園」、
ここではふるさとの年中行事を重視。
私も小正月行事の「しゅんなめ
じよ」には、もう二十年ばかりお付
き合いしてきた。そしてその度に感
心しているのが、園児たちに「じい
ちゃん・ばあちゃん」が手伝つて頂き、
それこそ「球磨弁まつ出し」で、ま
ことに自然な形で「幼老交流」が
なされていることである。
「こんなところ、どきやすればよか
にや」
「ほーら、ここよばこぎやーして切
れば人形さんのおイシヨになつどが
な。そして着物の柄は鍬やら鎌よば
描やてみゅうかじゃら」



球磨弁劇「花咲かじいさん」

「こいがモチいにや猿ちゅうとじやつ
で、このトギつたこいよば指の先イ
のせてんない。ぶらんぶらんして
おもしろいかな」というような調
子で、その二ギやかなこと。

古来日本の家庭では、子供たちと
の遊び相手やその躰などは、概ねじ

いちゃん・ばあちゃんの受持ちであつ
た。なにしろ若い親は、一家を食わ
せていくために「がまん出」さねば
ならない。従つて実際の家庭生活では
「そぎやん事どこつじやなか」つたか
らである。

その状態は今でも同じであらう。
しかも有難いことに、人生経験豊か
なお年寄りにとつて、その「仕事」
はうつつけでもあつた。なにしろ
年寄りというものは、自身がこれま
で培い貯えてきた経験や技術、さら
にはこころを、次世代に伝えていき
たいという欲求をだれしも持つてい
る。そしてそれが実現することによつ
て無常の歎びを感じるのである。

「幼老」関係の構築

ところが日本の人口が減る割りに

は家の軒数ばかりは増していくよう
に、三世代の家庭は「天然記念物」
のような状態になつてしまった。いわ
ゆる核家族化である。このため、年
寄りと子供の交流の場がすっかり薄
れてしまい、床しい伝統文化は次々
と影をひそめ、方言もあんまり使わ
れなくなつてきている。

その結果、とんでもない病気が
蔓延してしまつたのに気が付きであ
らうか。それはなにか、驚くばかり
の「認知症」患者の増加である。
まさに史上空前の現象ではなからう
か。かつて衣食住共はるかに不自由
であつた時代でさえも、村の中に「ど
ここの爺さんな、あんじゅらドモ
きつかやさいたげなが」などという
話は、めつたに聞くことはなかつた。
それが今では、「えー馬場の爺ど

んもな」「おいぎゃの婆もたい」「向かいの大将も、いつのはじやか免田へんまで、あゆうではつてといやいたとげな」「ぐらしゅうもある、キチどん方の婆さんなわが娘の名だり出ちやこんとげなばい」「すぎや言え、おいも」

それではこの原因は一体なにか、申すまでもなく年功を重ねてきた人たちが、その持てる「お宝」を幼少の者に伝えるチャンスがないからである。自分の家庭で、さらには地域にもそうした子供たちに接する機会がほとんどないのである。このために貴重な残れる時間や体力を、「キネ打ち木ん玉」みたいな、子供じみた遊びで紛わしてしまっているのである。

それらのフラストレーション（欲求不満）が溜まりに溜まって、終には腐敗。とうとう認知症となつて、掛替えのない余命を「おらーだいかにやー」となつてすごすのである。

そう考えてみると、福島や黒肥地保育園などの試みは、伝統行事や方言を伝えるばかりでなく、わが国の巨大な悩みである「幼老」関係の構築例として大きな存在だと言える。

【まえだ・かずひろ。人吉市】

くまがわ狂言

村上鬼拳

わきもんが つけの効く店持たつさん
銭ア有る 最高裁と闘うか
ついでに 墓参ちゆう名の票固め
素敵 公金に手出そうかしら
高速で 狭うしなつた日本地図
ふらアふら 副将までは討ちとつた
早い者勝ち 男嫌いは口ばかり
それはそれ 定年はしてもらわんと
何でんなか たまたま逢つた旅行先
バツチリ 遊説は断つてええ
ときめいて アトリエは絵になりやらん
ぞろびく 早う魚拓に取つてくれ
魅力 離党してでん走りた
じきたくり 第一秘書も通さでな
早仕舞い 今日どま夫婦しまつしよ
【むらかみ・きけん。人吉市】

朝起きるとき私は、手足を伸び縮みさせ、固まつた感じがする手足をほぐしてから起床する。高齢者の中には

ベッドから起きる際に転倒し、骨折する事故も少なくないとか。それを防ぐため起床時のストレッチは欠かせない。

運動教室で勧められ、何となく続けているストレッチだが、先日、ストレッチについて学ぶ機会があった。アメリカでジョギングブームが起きた

1970年代に、身体の柔軟性を高める手法としてボブ・アンダーソンが「ストレッチング」を発表した。40数年前のことで、意味は「伸ばす」ということ。70歳代の私が若い頃、アキレス腱を伸ばす場合は反動をつけていたが、今はじわじわと筋肉を伸ば

していく「静的ストレッチ」が主流だとか。

ストレッチは、長時間の同じ姿勢や運動不足によつて体が硬くなることを防ぐのが目的で、運動の前後に実施する。筋肉や関節が硬いまま、すぐに激しい運動をすると肉離れや関

ストレッチ

武井京子

節のケガにつながるのを予防し、事後に実施すると疲れを残さず筋肉痛を予防するという。ストレッチをする際は、息を止めずリラククスした状態が大事で、反動をつけず10〜20秒ほど数えながらゆっくりする。人と比較せず自分に合ったレベルで無理しない

こと、伸ばしている筋肉を意識することなども大事だという。

日常生活での動きにくさ、階段の上り下りの難儀さなどを通じて、筋肉が縮んだり、関節がガクガクするように感じる年代になった。中には高齢でも元気な人は、起床時にストレッチで身体をほぐしてから動き出すという人が多いようだ。

子ども時代に実施していた準備運動をそのまま続けていたなら、と反省させられる。今の熊本地震では「エコノミークラス症候群」で死亡、あるいは罹患された避難者も居られ、発症を防止するためストレッチが推奨されたのも記憶に新しい。

【たけい・きょうこ。人吉市】

熊太郎神社

— 球磨村大字渡字嶋田

氏川 平

一、はじめに

熊太郎神社の熊太郎とは、日本三大河川坂東太郎（利根川）・筑紫二郎（筑後川）・四国三郎（吉野川）と同様、日本三急流の一つに数えられる球磨川の別称ではないだろうか…。



神社は、球磨村渡国道219号線、肥薩線渡駅上の高台に鎮座しています。春は桜の花に囲まれ、西前方には球磨川の流れ越しに緑樹の茂る熊太郎山が眺められる眺望絶佳の地で

す。と村誌には記されています。

二、村と神社の興り

(1) 「南藤蔓綿録」によれば永禄10年（1567）11月、渡村領島田山熊太郎神社御再興。其前ハ大川越工向ノ山中ニ有、今熊太郎山ト云。草創時代不詳。社家伝ニ曰、古御当地郡司何某、求麻太郎、求麻若ト二人ノ男子アリ、而ルニ求麻太郎洪水ノ節大川辺出見ノ処頓ニ溺死。其死骸渡大川端ニアリ、則其山ニ葬一社ヲ建テ靈魂ヲ祭テ麻太郎神社ト号ス、其後、天文年中義滋公御代、今ノ島田山ニ遷座、此時熊太郎ノ文字ヲ改其外異説多シ、但当所ヲ渡リト名付ケタル事当社ニヨリテ起ルト云ヘリ。（後略）

(2) 郡誌によりますと、今から824年前の建久3年（1192）、平河三郎師高重代（祖先代々）所領田数注文に渡乃村・尾瀬之村・高野瀬之村の記述があります。このことから渡の地名の興りは800年以前に遡ることができると考えられます。

三、神社記（抜粋）

(1) 郡誌によりますと今から132年前の明治17年（1884）の熊太郎神社改造記には渡阿蘇神社に合祀とあります。大教宣布（明治維新政府の思想統一政策）によって遷宮されたのではないのでしょうか…。

(2) 熊太郎神社改造記（宝暦6年1756年260年前）には、次のように記されています。

（裏） 熊太郎神社改造記（本文2行 59字 縦書き）
再興遷宮随舊例

毎年祭禮從 公儀料壹斗五升定例
當社縁起 不審 質之村老古者

熊太郎兄弟 領當村 撫育 人民

近邑 悉 從

時 有 故 出處抵悟 甲乙

伏阻 天譴 忽 臻

甘棠 遺愛 尊信 思慕

遂 建 祠宇 奉 不絶

（参考1）甘棠とは、甘棠之愛・良い政治を行う人に対する尊敬と親愛の情の深いこと。古代中国周の国を最初に治めた。武王召公のよい政治に感じて

召公の休んだ、甘棠の木を大切にした故事

（参考2）甘棠は果樹名「こりんご」別名…ずみ・ひめかいどう・みつかいどう（バラ科落葉高木、果樹は球形赤熟する）

四、おわりに

肥沃な土地を育む熊太郎は、時には暴れ川（天譴）となつて流域を襲うこともあった。熊太郎の脅威に屈せず村民の先頭に立つて堤防や遊水池、土橋を築いた人々は、古代中国、周の国の故事『甘棠之愛』すなわち『立派な行い』は、後の世まで尊敬され、思い慕われ、永久不変の守護神熊太郎の祠として祀られ、今日に到っているのではないだろうか…。

祭礼は、11月16日、7月には夏祭りと渡阿蘇神社宮司、島田自治会65戸によって神事が行なわれています。

【うじかわ・たいら。72歳、球磨郡球磨村渡島田】

上杉芳野の「あがっ段」②

出会いは宝

私がボランティアを始め
てから20年余りになる。

初めは一人で15年ほど活動していたが、人吉市出身の演歌歌手塚原哲平さんの前座で踊った事がきっかけで、同じく出演した司会役、歌、踊りのメンバーたちが、それぞれ新しく6名が入って来てくれて「芳野とゆかいな仲間たち」が誕生し、私が座長と呼ばれる様になった。

いろんな福祉施設やお祭り、お祝い事などにお声が掛かり、東日本大震災チャリティーショーも立ち上げた。

後援会長には郷土史家

の前田一洋先生になって頂いたが、前田先生との出会いもまたおもしろい。先生が作られた焼酎音頭の曲に合わせて祭りで踊るのに「一人足りない」と声がかかり、断りもしないで参加した。初めてお会いした先生は、決して偉い人には見えない、にこにこ顔のロマンスグレーだった。

先生が担当されているラジオ番組「球磨川ストーリーでバスガイドをしなさい」と言われ「いいんですか？」と喜んで出演した。人吉市街外れ田野地区の山ん中にある先生の家に行くと、何と大きい額に入

れて飾ってある写真を見てびっくりひたまがった。

「先生、何でおじさんの写真があるんですか？」と聞くと「このお方は私が最も尊敬する郷土史家の恩人ですたい」と言われた。

その人の名は高田素次さんといつてみんなから「げんさん、げんさん」と呼ばれ、私の実家のすぐ近所でもあり、父はこの畑仕事も頼まれ働いていた。

子供さんの剣ちゃん、きよちゃん、こうちゃんとは、毎日遊ぶ幼なじみの友なのだ。おじちゃんはいつもベレー帽を被り自転車に乗り日曜日には光源寺で日

曜学校があり、おもしろい昔話をして下さった。

「おじさん、おじさん」と気軽に呼び慕っていたが、今思えば水戸黄門み

たいな人だった訳だ。

チャリティーショーで遠く熊本市内から駆けつけて下さる少女舞踊団指導者、中村花誠先生とのご縁も、

主人が自衛隊に勤務していたころ、剣道仲間と共に中村花誠先生の舞台の応援に行っていたとか。私たちが夫婦と最近わかったと花誠先生が笑っておられた。

私も職場のイベント（立ち上がったばかりの温泉祭り）においで頂き、それ以来の大切な大切な友達である。

「貴女が頑張っているから私はずーっと協力し応援するからね」とありがた

いお言葉。

雄さんも二回目のチャリティーショーにサプライズで来て頂き挨拶をして下さってから、いろんな時にお声をかけて頂く。

何とありがたい人達の集まりだろうか。

私にとって「出会い」とは宝であり、7月10日に実施する第1回熊本立ち上がれ、第6回東日本立ち上がれ大震災復興支援チャリティーショーも支えてくれる仲間のお陰で開催出来る事に感謝である。

【つえすぎ・よしの。球磨郡の元気応援団長。あさぎり町上】



第1回目の東日本大震災チャリティーショーにて前田一洋先生と。

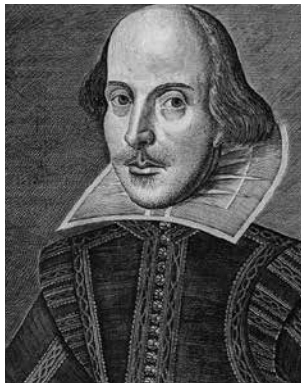
マグナ・カルタ (Magna Carta : The Great Charter) ④

鶴上 寛治

シェイクスピア・
エリザベス1世
とマグナ・カルタ

シェイクスピア (1564 ~

1616年) は、イギリス・ルネサンス期を代表する劇作家、詩人であり、卓越した人間観察をもとにした



William Shakespeare

心理描写は近代文学の基礎になっている。神話的世界から現実の人間世界に注目した彼の作品はまさに画期的であった。彼は、実在の人物をとりあげつつも、それを神話のベールで覆い隠すのではなく生身の人間として捉え、その生き様をさぐった。

彼はジョン王もとりあげている(『ジョン王』)が、批判的タッチで描いていない。マグナ・カルタはもちろんのこと、貴族たちによるジョン王の批判行動も明確にせず、人間関係につかれきった人物として描いている。歴史的事実と劇作は必ずしも一

致しないし、それが「通例」であるけれども、シェイクスピアの作品を読むうえで注意を要する点でもある。

彼が史実を意図的に無視(歪曲した)したとまではいわないけれども、彼の時代に、マグナ・カルタが忘れられていたか、軽視されていたのは間違いない。彼の時代には、イギリスはエリザベス一世(1533~1603)のもと王権は不安定であった。同女王は絶対主義的王権のもとにあったようにみえるけれども、彼女が未婚のままにすごしたことは無意味ではない。彼女は絶対主義的王権終焉のはじまりであった。

マグナ・カルタは、中世の等族国家の産物で、各等族と王との「契約」の性格のものであったことから、王権神授説の登場などによりマグナカル

タはその土台を掘り崩されかねない状況にあった。「綱引き」論をここで再度もちだせば、国王(女王)の側に綱は引き寄せられていた。それでもマグナカルタは流れを止めたわけではなかった。濁流(troubled water)

に飲みこまれしまったわけでもなかった。たとえば、エドワード・コーク(1552~1634)はシェイクスピアとはちがう流れのなかにいた。

ジェームズ1世の死
とマグナ・カルタ

エリザベス1世の死後(チューダー王朝の断絶)、スコットランド王のジェームズがイングランド王になった(スチュアート王朝の開始)。イングランド王とスコットランド王が同一人物になっ

た最初の例で、現在の「イギリス王制」の出発点になった。

ジェームズ1世はエリザベス1世の政策を踏襲するとしつつも、実際には王権神授説にもとづき国王大権を主張した。これに対して、エドワード・コークは、

「王権も法の下にある。法の技法は裁判官でないと分らないのであって、王の判断が裁判官の判決に優先することはない」

と裁判所の独立を主張した。ジェームズ1世はこれを聞いて激怒し、

「王である朕が法の下にあるとの発言は反逆罪に当たる」

と強弁した。これに対して、コークは、
「国王といえども神と法の下にある」

との法源(ブラクトンがまとめた)

を引用して、国王を追いつめ、

「マグナ・カルタは、その上に王をもたない存在である」

と発言するにいたる。

もちろん、以上はジェームズ1世とコークの個人的なイデオロギー対立ではない。両者は財政をめぐる国王側と議会側との対立、「自由」をめぐる国王側と被支配者側の闘いにほかならないが、コークを通じて、マグナ・カルタは、過去の遺物として捨てられるのではなく、近代の憲法と連続することになった。彼の「判例集(Reports)」と「イギリス法原理 (Institutes of the Laws of England)」はイギリス植民地のすべてに行きわたりバイブル化していく。

権利の請願

1628年の「権利の請願(Petition of Right)」は有名である。コークがこれを起草している。当時、彼の思想的影響力がどれだけ強かったか、この

一点でも理解できよう。

「権利の請願」は、国王大権が議会法に制約されること、イングランド国民は不当な権利侵害から守られていることを明確にした点、権利や自由が相続されることを明確にしたこと

で「法の支配」の考え方を大きくすすめた。ところが、ここでも「綱引き」がはじまる。ついにながら1628年は日本でいえば、徳川家光の時代で「紫衣事件」の前年である。

【つるかみ・かんじ。人吉市】

戦争という非常事態には多くの国民の犠牲があるのはもちろん、お寺も例外ではない。その一端を旧坂本村鮎婦の「西福寺」の資料から探る。

お寺と戦争③

山本 隆英

系統性

このような文章には、系統性や年代順が必要でしょうが、西福寺に残る資料を紹介するだけで、そのようなことには気をつけていません。四月号から五月号へそして六月号へと

はつながっていきません、単なる羅列です。

櫻に錨

挿入写真の旗を、文字は見ずに中央のデザインだけをみてほしい。桜にイカリだ。これが「婦人会」の旗とは考えにくい、



愛国婦人会の旗

申し訳程度に♀がついてはいるが、まさに軍隊の旗だ。西條八十作詞『若鷺の歌』(別名予科練の歌)にこう出てくる。

- 一、若い血潮の予科練の／七つ鉤は櫻に錨／今日も飛ぶ飛ぶ霞ヶ浦にや／希望の夢が湧く
- 二、……行くぞ敵陣殴り込み
- 三、……大和魂にや敵はない
- 四、生命惜しまぬ予科練の……。

因みに、西條八十作曲の軍歌は十一曲。その中で曲名に「桜」の文字がついている曲は、『同期の桜』、『二輪の桜』、『桜進軍』。曲名に桜の語句はないが、歌詞の中に使われているのは、前述の『若鷺の歌』の他にもいくつかあるのではないか。こうしてみると、桜という花は戦争遂行に大いに貢献していることになる。

戦後は二〇一五年まで、桜といえば花見とラグビー日本代表ロゴぐらいかな。写真フィルムシエアでかつてはフジカラーを抑えていたさくらカラーはもう見ない。長崎市は市の公園の桜の花の下で酒盛りをすることを条例で禁止した時代がある。ついだが、西條八十の戦後の代表作は、『青い山脈』。

愛国婦人会

本願寺につながる女性組織は、江戸時代から明治にかけて、女人講とか尼講とかいった信仰組織(講)が存在していたが、明治二十年代から、婦人教会、真宗婦人協励会、婦人慈善会等が各地に設立され、これらが明治三十年代から仏教婦人会となっていく。なぜ仏教婦人会の成り立ちを述べるかというと、愛国婦人会の設立と次の件で重なるからである。

一九〇〇年(明治三十三年)に起きた北清事変(義和団事件)に際し、佐賀県出身の婦人運動家奥村五百子が、本願寺慰問団の一員として参加し、兵士の惨苦を視察して帰国。陸海軍や政治家の支援で婦人団体結成に奔走し、翌年二月に愛国婦人会が設立される。初代会長は宮内大臣岩倉具定の妻久子が務め、一九〇三年には女性皇族を迎え入れた。

発端が本願寺の慰問団であることと、各地に仏教婦人会が設立されつつあったことから、仏教婦人会が愛国婦人会を兼ねるとか、看板を愛国婦人会に架け替えるなどで、ま

たたく間に全国に広まり、会員数四十六万人の国内最大の婦人団体となった。活動は当初、戦没遺家族や負傷兵士の救護であつたが、関東大震災罹災者救済、救護館の設立、職業紹介、花嫁紹介など幅広いものであつた。しかし、篤志家の慈善事業の域をえず、会費も高額であつた。



メダル小「愛国婦人会特別会員章」径2cm

メダル大「愛国婦人会有功章」径3cm

木札「通常愛国婦人会員章」長さ15cm

一九三三年（昭和七年）には、会費は低廉で負傷兵士の救護を手厚く行う大日本国防婦人会が大阪に結成され、会員数で愛国婦人会を上回った。別に大日本婦人連合会という婦人団体があつたが、この三団体を「大日本婦人会」に統合することを閣議決定。閣議は一九四一年（昭和十六年）六月、翌年六月正式統合。婦人団体も、軍部と政府によつて管理されていることがわかる。

西福寺は一九〇一年（明治三十四年）本堂と庫裡が全焼し、地域の婦人方が、北は小川町小野部田、南は芦北津奈木までも、本堂再建の資金集め勸進に出かけてくださっている。この行動が基礎となり、時流にも乗り仏教婦人会が結成され、次いで愛国婦人会に衣替えしたと思われる。だからこの旗と会員証が西福寺に残る。

【やまもと・りゅうえい。西福寺住職】

せきれい 鶴鶴短歌会

五月詠草

球磨川の橋を渡れば次の次 言葉懐かしふるさとの駅
天平に荒波こえてこの浜へ鑑真和上辿りつきしか

守永 和久

熊本震災受けし友々の顔が夢にもめぐりて消えず
竹の秋山々笑ひ風薫るここ奥球磨は何ごともなく

河内 徹夫

爽やかな風に青葉の季節なれど何とも憂かぬ震災の後
夫と行く旅はこの先幾度かと互みの健康祈りて旅へ

中村美喜子

妻病みて気ままに加齢重ねしが家事に無力な我を知りたり
定年後悠々自適の我が暮らし振り返え見れば幼児に似しか

西 武喜

真夜中の地震に夫は声掛ける「大丈夫だよ」と優しい声で
肉落ちし夫の背中に若い日の国体選手を重ねて想ふ

釜田 操

山の美にとりつかれたる朋輩は生きがい求め今日も登山を
亡き友の贈りしきくらは瀧桜勢いよくてしだが見えす

緒方 保正

つまづきて湿布で済むかと病院へ医師の返事は「折れているよ」と
吾が夫は散歩できぬと感じてかじつと顔見てフ口場をトイレに

中原 康子

青々とこんもり繁るハーブの中に赤い小花がひっそり咲きぬ
一日花わかつていても嬉しいと喜ぶ友へいそいそ届けむ

三原 光代

霧の中列車の音は膨らみて球磨の山峡をS字が行く
夕刻を告げるメロディ犬も哭く故郷想ひて歌が身に染む

橋詰 了一

春つらら野山に出てワラビ取る腰の痛みも忘れてをりぬ
今日も又のらりくらしと過ごし居り年のせいだと言ひ訳しつつ

宮山都保美

まなかひに一面ひろる麦畑の穂のざわめきに遠き日想はゆ
麦の穂の黒穂を抜きて顔にぬるそんな遊びが今は美し

堀田 英雄



柴神さんの継承

淋 俊二



県道沿いにある柴立姫神社

私が住む球磨村一勝地の淋地区は、まさに球磨川流域に位置し、球磨川とは切っても切り離せない地域である。今回は私のふる里である淋地区のことについてお話ししたいと思います。

地区内には山ん神さん、川ん神さん、荒神さんとありますが、私の中ではやはり「柴立姫神社（地元では通称柴神さん）」の存在が大きい。ご存知の方も多いと思うが、球磨川左岸を走る県道304号（一勝地神瀬線）沿いにあり、球磨川五大瀬の二つ「修理の瀬」の真上にあたる。



柴立姫の祭神

私が小学生だった35年ほど前は、土曜午前の授業を終えて帰宅した午後からは柴神さんは絶好の遊び場だった。当時はお菓子の一袋も貴重だったのだが、柴神さんには参拝者が奉納したお菓子があつた。それを年長の子どもが2拍手して頂き、みんなで分けておやつにした記憶がある。たまに

はふざけて奉納された球磨焼酎を飲んだことも…。なにかにつけて柴神さんは、私たちの遊び場となる舞台であつた。

その柴神さんの1年に1回のメインイベントが、旧暦3月4日の例大祭である。子どもの頃は、なぜ祭りの日が毎年変わるのか不思議で、隣地区の大人から「今年の祭りはいつね？」と聞かれても、答えられなかったこともあつた。祭日が毎年変わるので、春休み中であつたり家庭訪問の時期だったり。当日は父が学校の先生や同僚を自宅に招き、宴会で賑わっていたこともあつたが、少子高齢化で徐々に衰退していった。

現在、淋地区の住民は10戸の19人。一番若いのが小学6年の私の息子で、次に若いのが私である。今後、柴神さ



今年の例大祭には「吉組」の姿も

んを管理し、お祭りを継承していかねばならないのだが、ますます進むであろう高齢化が課題である。10年ほど前から、柴神さん一帯を公園化（川の駅）する計画が行政側で検討され

ているが、いま現在まだ表だって進行していない。地域の活性化のための策であつたのだろうが、地区民は期待ばかりが先走ってしまった…。

この計画が進行しようがしまいが私は、柴神さんと祭事を継承する立場にあり、伝統行事を伝えていく義務があると勝手に思っている。今までは地区の行事や祭りなどを傍観者の視点に見ていたところがあつたが、そろそろ本腰を入れて勉強しなければと思う。私は、私が生まれ、育ったこの地区が大好きだ。

柴神さんは子宝や安産、さらには婦人病にも効き目があるとされています。球磨川の急流と四囲の山々が醸す素晴らしい景観を眺めに、どうぞ足をお運び下さい。

【そそぎ・しゅんじ。球磨村】



小山勝清生誕一二〇年特集③

(編集部)

農村問題論①

磯田毅「郡築干拓の農業①」(本誌創刊号38頁)は、「郡築」の地名由来を紹介し、そのさい有名な「郡築争議」を紹介していた。郡築の農業地として形成過程をかんがえるときには、どうしても争議に触れざるをえないと考えたからであろう。たしかに、「郡築」はそういう地域である。

「郡築」は維新後の殖産政策の典型例であるだけでなく、そこでの争議は戦前日本の社会構造の特徴を示している。小山も、『農村問題原理』(大

正14年9月21日、至上社)で、郡築争議に注目し、同争議を日本近代史に位置づけようとした。

『農村問題原理』は農村問題(郡築争議を含む)に焦点を当てることによつて、日本の近代化を分析した『在る村の近世史』と相互補完の関係にある。農村問題が日本近代史の重要論点にほかならない以上、両者は自然にそういう関係になる。加えて、『在る村の近世史』の「在る村」が農村であることからすれば対象そのものが重なつているともいえる。もちろん、それは論理的にはそうなるということ

であつて、小山がそれを自覚していたかは別問題である。「在る村」に注目すること、農村問題全体に関心を寄せることは同一ではない。郡築争議も同様で農村問題の二例であると同時に独自性のある事件で、全体のなかに単純に組み入れてしまうと、その特質を把握できなくなる。

以上を前提に、小山の見解をみてみよう。『農村問題原理』の「序」は次のとおりである。

農村問題原理序説

「僅か百余頁のなかに、農村問題のすべてを書きあらわすことは不可能である。と言つて、複雑なる内容を只簡潔に書き直すことも、無駄である。現代は外国的思考方の紹介を終つて、日本そのものの就いての日

本人的の考え方を求めている。と言つて我等が、今、直ちに総合的大論文をまとめることは。却つて駄文に終わる恐れがある。今、我らの心底にあるものは、その真剣にして正しいことを自覚しているのであるが、これを総合して、一ツの学問とするには猶多くの努力を要する。

この「農村問題原理」も、かかる状態のもとに書かれたものである。従つて、これは総合的の農村問題ではなくて、著者の純粹主観をもつて見た農村問題である。単に、農村問題の全般の知識を得んとする人は、他の著作に就いて学ぶべきである。これについて著者は、那須皓博士の諸著を推称する。しかし乍ら、著者がこの書に就いてひそかに自負するところのものは、この短き論文の中

に、多くの創見が含まれていることである。それが故に、他の多くの著書よりも、日本に於ける農村問題の真髓にふれていることである。その触れるところ小なりといえども、これによつて、真に農村を見る目を開く端ともなれば著者何よりの光栄である。本書の目的又、ここに存するのである。」

29歳の小山はこのように書いた。

①外国文献に依存する研究の時代は終了し、「日本人的思考方」によつて検討すべき時期に入つている。②部分的であれ独自の見解(農村問題の真髓に触れる)をこの本では述べている、の2点を強調しているように読めるけれども、それほどに整理されているわけではない。「輸入学問(翻訳学問)」からの方向転換は当時さかんに指摘

されていたことで、それ自体に特色はない。もちろん、それでも、これによつて小山の立脚点を知ることができる。問題は、その立脚点を具体的に確認できるかであるが、残念ながら、その具体例を明確には確認できない。「多くの創見」も同様である。お山の「創見」を発見するのはむずかしい。ついにながら、小山は、農村問題全体の参考書として那須皓の著作をあげている。那須皓(1886-1984)は東京帝大農学部教授で、『農業問題と社会思想』、『公正なる小作料』、『農政論考』などの著作があるが、編集部は彼の著作を知らず、小山が彼の著作を参考書として勧めている理由を確認できない。

《補足》

郡築争議について、小山は、

「明治二七、八年頃、八代町、杉高町（ママ）、八千把の地先の海浜を埋立て、同郡二十四個村の公有新地を築造せんと企て、郡費を投じ、幾多の難を排して三十七年二月九日堤防が竣成した。その新地が郡築村である。

堤防は成ったが堤防内の地面は荒浜礪原であつた。しかも郡は耕地整理して田畑を作る財力がなく、窮余の策として資力三千円以上、品行方正を条件として小作人の申出を受け、調査の上これを許可した。かくて千二百町歩、戸数三千余の一村を成すに至つたのである。かくて八代郡は各町村より一厘の徴収も、しない

で郡築一村の徴収も、しないで郡築一村の小作料を以て優に立ち、郡費を弁じ、事業を起こすことすら出来た。」と概略している。これだけをとりだせば郡築争議の原因はみえてこない。

むしろ郡制のもとでの八代郡の政策能力の優秀性を、この一文は示唆している。もちろん小山はつづけて次のように指摘しているのだけれども、郡築争議の実態に肉薄しているようにはみえない。すなわち、

「郡有の倉庫豊かに郡民郡費の負担より免れて幾多の便益を得て居る反面には、一村の小作人は極度の貧困に陥り、金銭及び肥料の借入すらなす能わざる程对人的信用失墜し、生活のどん底に呻吟するに至つた。殊に大正十一年度の不作の為、その年度の小作料半減を地主たる郡の交

易事業組合に要求した。組合長たる郡長はこれを拒絶した。小作人は適々改選期に際して農会に多数を制して目的を図つたが、郡はこれに對抗して小作地引き上げを宣伝せしめ、候補者等十四名に小作地返還の内容証明郵便を發して運動を阻害した。かかる中に日本農民組合の高崎正戸、花田重郎来て組合組織の要を説き、四月二日発足会を挙げ……」

とするだけである。「小作人極度の貧困に陥り」とする。けれど、その原因については説明していない。それどころか「对人的信用失墜」という小作人個人に責任があつたかのように表現している。大正十二年については「不作」とするだけである。郡築争議の代名詞ともいえる、杉田つも（1887～1946年）に触れていないだけで

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

竹藪にうぐいすくれば口笛の真似に応えて懸命に鳴く
日の暮れる池の淵からげろげろと明日は雨だよ蛙は告げる

三原 竹二

野の花を摘みて束にし見つむれば雑草などと言うべきでなし
桜花咲いてうれしや日和日に散るもうれしく歓声のわく

坂本 ケイ

大学に入りし孫は日々笑顔京の街をば闊歩しており
新緑の中をS.L.走り来る黒煙を上げ汽笛鳴らして

上田 廸子

絶え間なく余震の続く被災地に子は辛抱し糊口を凌ぐ
駆けてゆく薫風の先市房は青く光りて里を見守る

宮川しのぶ

菖蒲湯も粽もなしに屈原を語りし人の懐かしきかな
海に沿う道を辿れど磯はなく思い出遠く堤防つづく

宮原 征子

古里の荒れ田に咲きしれんげ草米の肥やしになれず朽ちる
「縁がわ」に喜々としつどうお年寄りあぎゃんこぎゃんと話がはずむ

※「縁がわ」Ⅱ町内老人会の昼食会

胸川きよし

一面のブルーシートの屋根つづく熊本地震の余震は絶えず
崩れたる城垣見つめ友呻く「文化財よか被災者ばい」と

上田 精一

小山勝清特集

★小山は、郡築争議のほか、大阪・三島郡山田村争議、岡山・小島郡藤田農場争議を争議例として引用している。

昭和二十三年元旦に 父が記した遺稿③

片岡 和紘

三、農地解放

昭和二十年から進駐軍の命令により農地解放が実施された。一回で終わったのかと思っていれば、それでは極めて不十分ということで昭和二十二年から再開された。情報によると、いつまでという期間の定めはなく実施されるようだ。農地解放は一言で言えば、地主と小作農を入れ換える政策で、これまでの小作農が地主になるということだ。地主が小作農になることも十分に考えられる。

政策の目的とするところは良いと思うが、一番問題に思えるのは例え三反百姓でも軍隊への召集などの理由で、その留守中に田地を小作地として他の農家に預けると、預けた田地は不在地主として認められ、農地解放の対象地になってしまうことになる。一町歩の自作農でも小作地とし

て預ければ、その土地は買収の対象地になる。買収地に下限が無いのが最大の問題点である。買収の対象となる田地は五町歩以上とすべきではないかと思う。

我が家は一町歩を少し切る程の自作農家であるが、既に私が軍隊に行っている間に千代子の実家の叔父の勧めで小作地に出したため昨年、最も優良な水田が三反も政府に買収され、小作農に渡ってしまった。それだけでも大きな打撃である。残りは七反弱の田地と二町歩ほどの原野だが、原野は買収の対象から外されているということだ。例えそうであっても原野は生産を生まぬ土地である。今後さらに買収されると我が家の田地は三反歩位の貧農になつてしまい、生活が成り立たなくなつてしまうことは必至だ。そのことが家族の健康と同じぐらい心配になる。日本の政府は何故、堂々とその問題点を進駐軍に意見主張しないのだろうか。

四、A医師と日本共産党のマルクス主義

私にはA医師という精神科の友人がいる。この医師は人格高潔で愛に溢れた人である。私は復員して次々にふりかかる難問で少し心を痛め、A先生の手当を受けてい

るが、先生は私が経済的に困窮していることを知っていて、診療代を取ろうとしない。それは他の患者に対しても同じことである。私はこの先生を愛して止まないが、一方で先生はマルクス主義の熱烈な信奉者である。

私が行く度に、マルクス主義は人間を幸せに導く世界最高の思想である。この思想が実現されると、日本も世界も戦争が無くなって平和で豊かな社会が実現されるが、その実現者が日本共産党だというのだ。私はA先生を心から尊敬するが、マルクス主義や日本共産党にはどうしても同調出来ない。その理由は、軍隊にいた時の情報でスターリンの正体を見たからだ。

ソ連軍は機関銃と戦車の威力で民間住宅に押し入り、少しでも抵抗する者は即座に銃で射殺し、金品を強奪。婦女子とみれば民衆の前で輪姦し、時によつては銃殺するという畜生にも劣る蛮行を繰り返したのだ。また武装解除した日本兵を帰還させると偽つて、実はロシアの酷寒の地に送り込み、衣服も食事もほとんど与えず強制労働に就かせ、多くの同胞を死に至らしめたのだ。

スターリンにとつては日本人がどんなに死のうと何の痛みも感じなかったのだ。スターリンは下級の兵隊がやった

ことで自分に責任はないと言っただろうが、すべての責任はスターリンにある。ソ連の共産党はスターリンの独裁だ。それがマルクス主義の本質だ。中国でも毛沢東が蒋介石と戦っているが、鉄の統制が敷かれている毛沢東が勝利を収めるだろう。その後には大粛正が行われるはずだ。それは現在、毛沢東の配下にも及ぶはずである。何百万人の命が消えるだろう。

私は以上のようなことをA先生に話したが、マルクスを神のように信奉する純真無垢な先生は、マルクスが悪いのではない、スターリンが誤っているのだ。マルクス主義を正しく実施すればすべての者が幸せになると言う。こんな立派な先生をマルクス主義や共産党の犠牲にしてはならない。A先生は日本共産党に入党すると言っているが、やがていつか裏切られる日がやってくるのではないかと思う。先生は病む者を助ける神のような慈悲深い精神科医だ。医者として沢山の病める者を救うことが出来る。それで十分ではないかと思う。政治思想も大切だが、その前に立派な人格者でなければならぬ。それが大前提だ。

【かたおか・かずひろ。旧上村出身、愛知県】

字図で見る球磨の地名③ 上村重次

別府（ビュウ）

―須恵村（現あさぎり町）ほか―
明治前期町村字名調書によると球磨地域には別府地名が三十件あり、うち十七件はビュウ（ヒウ）、残り十三件は



ベップの訓である。

〔ビュウ（ヒウ）〕

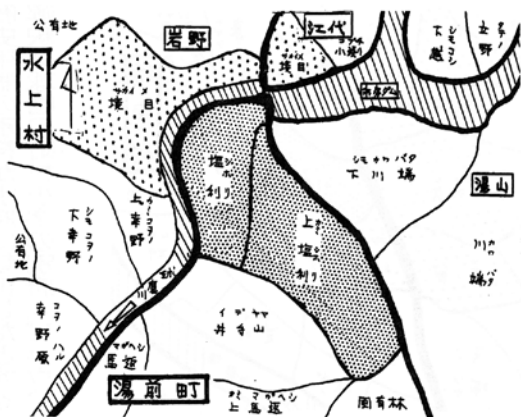
▽別府（ビュウ）須恵村▽別府（ヒウフ）
山江村山田▽上別府（ウエヒウ）山江
村山田▽上別府（カミビュウ）多良木町
久米▽中ノ別府（ナカノビュウ）上村
▽西ノ別府（ニシノビュウ）上村▽下西
ノ別府（シモノシノビュウ）上村▽原西
ノ別府（ハルニシノビュウ）上村▽別府
坂（ビュザカ）人吉市大畑▽別府原（ビ
ウハル）相良村川辺▽別府前（ビュウ
ノマイ）上村▽別府ノ峯（ビウノミネ）
球磨村渡▽別府村（ビュウムラ）上村
▽枝ノ別府（エダノビュウ）上村▽鎌別
府（カマノビフ）多良木町久米▽八十
ノ別府（ヤソノビュウ）上村

〔ベップ〕▽別府（ベップ）人吉市中

塩利（シホリ）

―湯前町―

湯前町の塩利は字塩利、字上塩利の二つの小字に分かれる。北端は市房ダムに面し、水上村の域内に食い込む形で岩野・江代・湯山の旧三方村（いずれも水上村の大字）と境い合っていて、水



神▽別府（ベップ）錦町一武▽別府（ベ
ップ）岡原村宮原▽上別府（カミベップ）
山江村万江▽上別府（カミベップ）湯
前町▽上ノ別府（カミノベップ）錦町一
武▽下別府（シモベップ）湯前町▽別
府谷（ベップタニ）山江村万江▽別府畑
（ベップハタ）錦町二武▽別府原（ベッ
プバル）岡原村宮原▽別府前（ベップマ
エ）錦町二武▽今別府（イマベップ）錦
町二武▽高別府（タカベップ）湯前町

別府地名については「別符をもつて指
定された保で、社寺の封米を担当した
もの」（『地名の語源』鐘味完一・明克）
とするのが一般的で、柳田国男は別符に
よる追加開墾地説を唱えている。こう
した歴史用語の「別符」が別府に転化
したとする解釈は球磨の町村小字の別府
（ビュウ、ベップ）にはあてはまりそう
にもない。

前回、日代越（ヒヨゴエ）の項で述
べたように、境界標のヒョウが鰯や峠、

上中学校は湯前町塩利にある。

湯前町には潮山（ウシオヤマ）とい
う小字があつて、塩分を含んだ湧水地
を御神体とする潮神社が鎮座すること
から、塩利の文字に付会して「塩にち
なんだ地名」と考える人もあるかもしれ
ない。

球磨村神瀬および人吉市鬼木町には
塩井川（シヨイカワ）という小字もあ
り、海から離れた内陸山間地といつて
も、塩は人々の生活には欠かせない必
需品であるから塩に関連した地名が存
在する、と主張する人もあろう。

しかし、塩利は宛て字であつて塩分と
は関係ない。安永二（1773）年に
描かれた「球磨絵図」には「枝折」と
なっている。熊本県内の町村小字でシオ
リ地名を探すと、宇土市網田字枝折神
（シヨリガミ）、三角町里浦字枝折神
水俣市浜字朱利神（シヨリカミ）、天草
郡河浦町今富字師織（シヨリ）、八代
郡坂本村中津道字紫折（シオリ）、多

鴨、兵・俵・瓢などに変わり、日雇い
がヒヤトイ↓ヒヨトリ↓ヒュウトリに
転化するように標がヒュウの音に近い別
符（ベフ）↓別府が用字されたのではあ
るまいか。
下益城郡松橋町には微雨（ビウ）と
いう小字が七件あり、いずれも旧村界
に立地することから別府（ビュウ）も同
じく標の変化形と考えられる。球磨地
方の別府も殆ど町村界（大字界）に存
在する。
熊本県内の他郡には別府という小字
はみられない。『日本方言大辞典』（小
学館）によると、尻や最後をヒューとい
うのは球磨・八代地方だけである。
土地区域の最後に当たるのはムラ境
である。川尻、田尻、山尻などの尻が
ヒュウに該当する。川尻と川口が同義で
あるように、ヒュウはムラにとつて最重
要地である。

良木町槻木字シヨリなどがある。

シオリ系の地名は変化形が多く、水俣市の朱利神の例から考えると、球磨川下り四十八瀬の二、修理の瀬(シユリノセ)の名称も同系の可能性がある。

紫折や枝折神については「峠守の道祖神などに柴の枝を折って供えたことから、紫折神や枝折神と呼ばれるようになった」とか、「山道で迷わないように帰路の目印として木の枝を折っておくのが枝折の語源」とされる。

シオリが目印であることは間違いない。読書家に必要な某(しをり)は枝折に由来する語であるし、旅行案内書は「旅のしおり」と雅称される。地名の場合のシオリは標(しるし、しめ)のことで、土地区域の境界を意味する。

犬がオシッコするのは縄張主張行為といわれる。動物の多くはテリトリー(生活圏)を持っていて、自分のテリトリーであることを知らせる行為をマーキングという。人は言語を有する前にどのよ

うなマーキングでテリトリー表現をしたかはわからない。

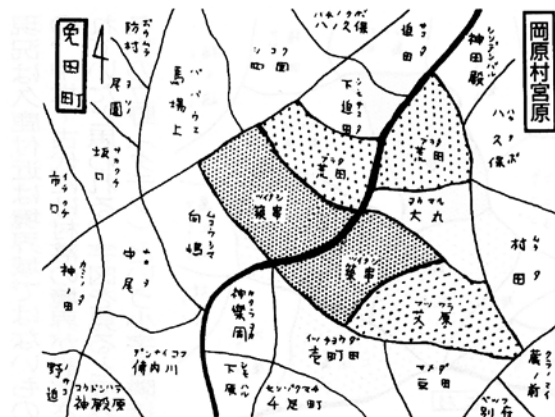
「ツバをつける」という俗語は先占権の表現であり、運動会見学席確保のために早朝からムシロを敷いたり、列車の座席などにモノを置いて「トットツ」と意思表示するのは、犬のオシッコと変わらぬマーキングと言えよう。

木枝を折つて土地区域の目標とするのは、地名発生の原点の一つであつて、枝折神は境界守護神と見ることができよう。

築串(ツイクシ)

―免田町・岡原村岡本
(現あさぎり町)―

枝折と同じように原初的なネーミングの地名が築串である。もちろん枝折や築串という地名だからといって、そこが球磨の発祥地というわけではなく、古い時代の命名の仕方を受け継いでいる



という意である。

『日本書紀』(神代紀上)に「素戔鳴尊、妬害姉田、云云、挿籤…」スサノヲノミコトは姉(天照大神)の田をねたんで串を刺した…」という記事がある。土地に串を刺すというのは、占有地の表現、すなわちテリトリーの

マーキングである。だから姉の田といえども弟がその田に串を刺すのは横領ということになり、このような不法串刺は古代の天つ罪の一つとされていた。

『地名の研究』(柳田国男)によると「邑落の境にシメツクシ(注連標)またはツクシモリ(標森)の地名があるのは東北一般の風である」と述べ「ツクシはもと標木の義であつたものが、転じて広く境の徴を意味するにいたつたらしい」と論考している。

柳田説のツクシが免田町・岡原村界の築串に該当するのは字図を見れば明白である。現地は農地基盤整備事業によつて整然と区画された水田になつていて、境界農道も直線化されているが、以前は曲がりくねつた野良道に標木が立てられたのにちなんで、両方の村が標木のある付近をツクシ(ツイクシ→チクシ)と呼んだのが地名化したのであろう。その区域にツクシと命名されたことも考えられよう。

ツクシ地名は東北に多いが、古代からのチクシ地名の本場は九州である。筑紫国は筑前・筑後に分かれる一方では筑紫は九州の別称でもあつた。神代の串刺と古代の筑紫は同義語であろうが、九州ではチクシ、東北ではツクシと呼ばれるのは発音の地域差と思われる。球磨ではツイクシと発音されることを考えるとツクシ→ツイクシ→チクシの転音経過も想定される。

九州の筑紫の原点を佐賀県三養基郡基山町の基山(きざん、404m)に求める説が有力である。基山の山頂尾根には古代山城の基肆城(きいのき)があり、国の特別史跡に指定されている。山頂には靈々石(たまたまいし)と呼ばれる巨岩があつて、式内社荒穂神社の神石であるとともに昔から筑前・肥前の疆域をわける榜示石になつている。

貝原益軒は著書『筑前統風土記』に「筑紫は唐土(もろこし)の敵を防ぐ

ために石垣を築いたことにちなむ築石の義」と述べているが、東北に現存するツクシ地名や免田町・岡原村の小字築串にみられるように、岩石の築石ではなく境界標のツクシがルーツであろう。

久鹿(クシカ)

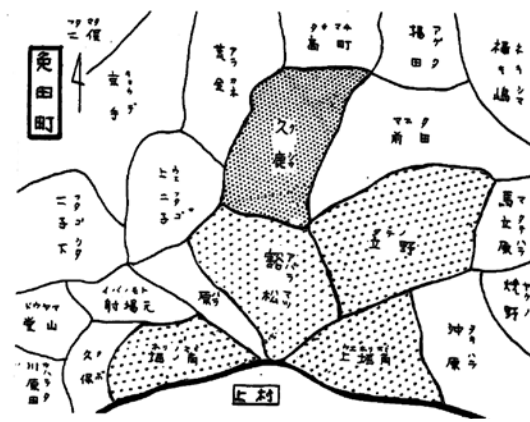
―免田町(現あさぎり町)―

免田町の中心部、町役場付近の小字が久鹿である。『大言海』には「鹿章くじか 鹿に似て小さく、角なく、毛の黄黒なるもの、雄に牙あり、皮極めて柔にして用多しと云う。和産なし」とある。『字鏡』は久自加(クジカ)と濁音であるが『和名抄』は久之加(クシカ)と清音訓にしている。

日本には生息しないクシカが日本の古典に登場するのは薬用か毛皮利用のために、古代に中国から輸入されていたのであろうか。それにしても都から遠く離れた球磨の地に中国産の鹿の一種

がいて、しかもその名称が地名化するほど地元と密接な関係があつたとは考えにくい。

とすれば、久鹿は当て字と仮定して検討すべきであろう。久鹿をクシカというのは上音下訓の重箱読みであり、正音だとクガになる。地名のクガは空閑地のことで久我、久家、古閑、古賀な



どの変化形が各地に見られる。ところが球磨地区の市町村小字にはコガ・クガ地名は皆無である。従つて久鹿を空閑の転化とするのには難点がある。

次に発音の組み合わせをク・シカでなくクシ・カとして考えると、前回の築串で取り上げた「串」との関連が思い浮かぶ。串はオミクジの籤と同じくシルシ、フダのことで、地名では境界標の「標」と同義に用いられる例が多く、クシカに適應する漢字を宛てると「串処」ということになる。この「串処」をカと訓ませる例は在り処（ありか）があり、山鹿（ヤマカ）の鹿を処の意とするのは定説化している。

ズ、二子（フタゴ）、鈴松（アバラマツ）、堀角（ホリノスミ）などの境界表現の、小字に取り巻かれている。これらの字名については別の機会に述べる。

免田町の久鹿と同語地名としては、多良木町多良木字九鹿（クシカ）がある。九と久（玖）は同義であるから久鹿と九鹿は同じ語であり、九鹿も現状はムラ境ではないが古い時代の境域を示す地名といえよう。

県外の串地名では、和歌山県の串本（クシモト）のほかに鹿児島県串木野（クシキノ）、宮崎県串間（クシマ）、鹿児島県串良（クシラ）良はソコラのラ（と同じ）などがあげられる。球磨・薩

以上のような理由で久鹿はムラ境の標木にちなむ串処（クシカ）と推定する。現況は久鹿付近は境界域ではないものの、中世〜古代には村落の境界が設定されていたと思われる。字図を見ると境界名称の立野（タテノ）という小字と隣接しているほか、京手（キョウ

【うえむら・しげじ、宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

話題を追って

近代西洋歯科医学の先駆者・一井正典研究の記録も

松本齒科医院が70年誌発刊

本誌連載の「球磨川の駅・ものがたり」で、お馴染みの松本晋一さんが院長を務める人吉市の松本齒科医院の開院70周年記念誌「続・亀の歩み」がこのほど発刊された。

同誌は平成2年に発刊された45年記念誌「馬鈴」から数えて4冊目の記念誌で、ここ10年の同医院の歩みがカラ―



記念誌の表紙



一井正典研究に至った
経緯と調査記録が克明
に記されている

匠の枝



御膳醬油

(だし入り万能しょうゆ)

- ◆玉子かけご飯
- ◆豆腐
- ◆お刺身に

人吉 釜田醸造所
万能しょうゆ
御膳醬油
300ml 650円 (税抜)



人吉 釜田醸造所
萬能しょうゆ
みそ煎餅
477円 (税抜)



◆納豆みそ (お徳用)
300円 (税抜)



◆納豆みそ
477円 (税抜)



人吉散策コース 九州初見 蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp

御膳醬油

（だし入り万能しょうゆ）

- ・玉子かけご飯
- ・豆腐
- ・お刺身に

300ml 650円 (税別)

人吉龍

◆みそ煎餅
477円(税抜)

人吉散策コース 九州組員 蔵めぐり
みぞ・しょうゆ蔵

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16

電話 (0966) 2 2 - 3 1 6 4
FAX (0966) 2 2 - 3 1 6 5

メール info@marukama.co.jp

File's Chat archive type

民宿法

菊田吉富

初めは万国博覧会のおまけであったオリンピックも、この11回大会あたりから入場行進が行われ、国旗の掲揚・国家斉唱やメダルの獲得競争はナショナルリズムを高め、オリンピックを開催することが一流国家の仲間入りという意外な効果に各国が気づき始め、それを政策に取り込むとしていきます。

第11回大会はベルリンで開催されましたが、ヒトラーはオリンピックをドイツ民族の優秀性を世界に見せつける絶好の機会として、人種差別も凍結して開催することにしたようで、ギリシャのオリンピックで聖火を採火しベル

リンまでリレーすることになりました。

第12回大会は1940年に東京で開催される予定でしたが、日中戦争の影響等から日本政府が開催権を返上、次点の代替地であったヘルシンキも第二次世界大戦の勃発によりこちらも中止となってしまいました。

開催が決定した当時は東京を中心とした都市美観工事やスタジアム建設、戸田漕艇場の建設、ホテルの建設、国際的土産品の開発、英語教育・テレビ中継などが計画・実行され、政府からは多額の補助金が支出されています。

さて2014年の訪日外国人数は過去最高の1千341万人を数え、2015年はさらに増加し、10月末の時点で1千631万人とすでに前年を上回っており、この勢いは当面続くと考えられています。

政府は2020年のオリンピックでの訪日外国人数目標を3千万人と設定しています。

しかし、急激な訪日客増加に宿泊施設の供給が追い付かず、特に首都圏ではホテルなどの部屋不足が深刻化しています。

2013年に日本でもスタートした物件を宿泊施設として登録、営業できる「民泊」プラットフォームである「エアビーアンドビー (Airbnb)」をはじめ、「シェアリング・エコノミー」と呼ばれるサービスが急拡大しています。

厚生労働省と国土交通省は2016年4月に、旅館業法を改正しない範囲で、オリンピック用の外国人に限定した民泊を全国で解禁する方針を決め、トラブルを防ぐための基準づくりを進める考えです。

全国の動きに先立ち東京都大田区は、2016年3月に「特区民泊」について新たな条例を制定することを発表し、床面積が25平方メートル以上などといった一定の条件が付されますが、旅館業法で義務付けられているフロントの設置や寝室の面積基準などを満たさなくても営業できるようになりました。しかしオリンピック見学を前提とした滞在期間が6泊7日以上であるために認定を受けたのは1社、2物件のみとなっています。大阪市においても民泊条例が平成

28年1月15日付で可決されました。ここでも宿泊期間は7日間以上の滞在つまり、6日以下の民泊は禁止です。

エアビーアンドビーでは宿泊代金は手数料を控除した報酬が外国の預金口座に振り込まれるため民泊業者が税金の申告をしているかの把握が困難でしたが、認定事業者は滞在者名簿を用意することが義務付けられることとなりますので脱税の余地はなくなっています。

現在の非合法の民泊は、夜間のキャリーカートの走行音がうるさいとか、朝のゴミ出しが分別されていないといった内容の苦情が多く、マンションの管理組合ではこの民泊を許可することは考えられません。

「特区民泊」制度はあくまでもオリンピックで訪れる外国人の宿泊所の確

保が目的ですので、民泊業者は二戸建ての住居を利用して民宿やペンション経営と同じように旅館業の免許を取って堂々と営業すべきです。

話題にはなっていませんが日本においては、お伊勢参りや四国八十八カ所巡礼、九州においても宿坊というものがあり、1泊2食5千円から6千3百円、素泊まりなら3千円前後で泊まることができます。宿泊者に対して朝のお勤めとして住職の講話などを行います任意参加の形式の所が多く、禅寺に於いては坐禅も体験する事もできるようですので、浅草寺や円覚寺、日光東照宮近郊の神社は、外国人観光客に対しての宿泊施設としての活用が望まれます。

【かりた・よしとむ。税理士・行政書士、千葉市】

たくさんの出来事の中から

本村登代美

リレーエッセイ

伏流水

連載その③

湧き出した伏流水は、やがて清流球磨川となり八代平野を潤して不知火海へと注ぐ。我々もそれにあやかり世の伏流水とならんと願いつつ、このバトンをつないでいきたい。

昨年5月に実家の父が亡くなつて1年が経ちました。その間、書くことをお休みさせて頂き、今回久しぶりに書きました。そしてこの1年間、たくさんのことがありました。天候不順で果樹の生育が良くなかったこと、収穫期を迎えた梨が台風で落果したことなど、もうこれ以上の悪いことはないだろうと言うほど悪い年でした。今年はい言いますと、今のところはますますですね。



トンネルハウスの桃の初出荷!
(5月31日)

もう一つは姪の結婚式が広島県であったことです。初めての広島へは実家の弟が運転する車で姪の両親、弟や妹、私たち親子3人、姪夫婦と2人の子ども、母など14名による珍道中。帰りは義弟親子3人が加わり、計17名の大所帯でした。

広島では平和公園に向き、慰霊碑の前で亡くなられた方々に手を合わせ、これから先も平和でありますようにと願いました。原爆ドームを目にしたときには鳥肌が立ち、二度

とこのような悲しい出来事はあつてはならないと思いました。私にとつてとても心に残ったことでした。そして行く機会はないだろうと思つていた、世界遺産の厳島も訪れることが出来ました。人慣れ、カメラ慣れしている鹿には思わず笑つてしまうなど、リフレッシュな旅でした。今度はゆっくり

と周遊してみたいなと思いました。私たち夫婦は来年、銀婚式を迎えます。どんなことが待っているのやら、今から楽しみです。でもこうして健康で果樹園経営が出来ることは幸せなことですね。今年もトンネルハウスの桃を皮切りに、露地物の桃、トンネルハウスの梨の出荷と忙しい日々が始



露地梨の花が咲きました (4月4日)

まります。8月からは国道219号沿いの直販所で梨、ブドウ、柿の販売が11月上旬まで続きます。お近くをお通りの際にはお茶でもどうぞ。たくさんの方々との出会いを楽しみに、昔は若かったが今では……がお待ちしています。

最後に実家の父が亡くなる前に伝えることが出来なかった思いを、誌面をお借りして書くことをお許し下さい。

「お父さん、私はお父さんの娘に生まれてきて良かったと思つています。たくさんの愛情、思い出を頂きました。ありがとう」

【もとむら・とよみ。果樹農家、球磨郡錦町】

読者の声

※この欄への投稿を募集しています。
巻末の編集部宛にお送りください。

『くまがわ春秋』手にして

創刊の4月号・5月号と手にして、なんと優しい雑誌なのかと思いました。当然とはいえ、読者層を考えて、高齢者を中心にあらゆる年代に向けていらつしやいます。パラパラとめくって、オヤ、とか、アレと手を止める、そんな見出しが並んでいました。駅シリーズも楽しみだし、古地図の地名の話もいいし……。あげればきりがありません。とはいえ、わたしの場合はまず巻頭言。ここは雑誌の肝ですから。特に5月号は「巻頭言にかえて」と題して、だれでもが知りたい地震のこと。お城の崩壊から当時の武士階級のものと考え方がひも解かれ、現在生きている人々に細やかな心配りをしているらつしやる。あゝ、いいものを読ませていただいたと

感謝したのでした。少人数での発行ではないかと想像しますが(2、3人くらい)、とてもそうとは思えません。今後も楽しみにしています。(笠原真弓)

振り幅と奥行きの高さ、執筆陣の多彩な顔ぶれに恐れ多く、「子どもの遊びの今昔」一つをとつても、地域性も盛り込んであり興味深く読みました。(男性)

①源流水リレーの意味を知ることが出来て良かったと思っています。②所々にある安倍批判も好きです。③山下清さんのおしりはできれば見たくなかったです。④表紙の写真は最高だと思っています。(女性)

情報ピックアップ

継続的な熊本震災支援コンサート

人吉市 PRIMavera

人吉市上薩摩瀬町にあるイタリアンレストラン BUONO 横にあるイベントホール PRIMavera では、フリーパス券形式(大人2000円、中学生1000円)で継続的な熊本地震支援のチャリティコンサートを行っている。今後の予定は次の通り。



▽6月19日(日) 18:30
バンドライブ
▽6月25日(土) 18:30
バンドライブ
▽7月2日(土) 18:30
ジャズライブ
▽7月3日(日) 19:00
あるぼ／あきぼん／テナ／ぼんた
▽7月9日(土) 19:00
アコースティックライブ
▽7月10日(日) 15:00
牧光輝ピアノリサイタル
▽7月17日(土) 15:00
ひとよしキャンペーンボーイ
お問合せは BUONO BUONO の春口さん(☎0966・24・4522)まで。

すべての人を自分の親だと思って…



○特別養護老人ホーム
○短期入所生活介護
○通所介護事業所
○居宅介護支援事業所

社会福祉法人 天雲会

龍生園

〒868-0086 人吉市下原田町瓜生田1057-9
施設部門 ☎0966-22-6621 FAX 0966-22-6622
在宅部門 ☎0966-22-2141 FAX 0966-22-2183
http://park5.wakwak.com/~ryuseien/
e-mail:tenunkai@ab.wakwak.com

南陵高生が復興支援の農業ボランティア

18日、南阿蘇村を訪問

県立南陵高校(球磨郡あさぎり町)では、熊本地震の復興・支援に向けた農業ボランティア活動を南阿蘇村吉田地区で実施している。

この活動は、同校の生徒たちから「もつと農業関係のボラン

独身男女を対象に“出会い”パーティ

7月24日人吉市で

出会いが少ない独身男女を対象とした「婚活 パーティ」が7月24日(日)、人吉市内で予定されている。地域活性化を目的に、た「らぎ赤い糸」プロジェクト委員会と熊本結婚相談室アイキャンが企画したもの。

募集しているのは、①午前10

ティアをしたい」との声に応えて計画されたもので、生徒や保護者を中心に南阿蘇村を訪れることにしたもの。

すでに6月11日には約40名が参加してブドウの摘粒やジャガイモ掘りなどを手伝っており、第2回目となる6月18日には39名が参加して和綿クッションの贈呈や草花の定植作業を行う予定。

時からの40歳～60歳の男女対象の午前の部と、②午後2時から30歳～50歳の独身男女対象の参加者。

参加費は男性が4500円、女性が3500円で、各20名を募集、参加が確定した人へのみ人吉市内のパーティ会場を伝える。

お問合せは、アイキャン(☎0966・43・1380)の高山さんまで。

インフォメーション

- ▽6月16日(金) 求麻郷土研6月例会「木上地区文化財調査」
 - ▽6月17日(金) 熊本復興支援「球磨川ジャズの夕べ」奥村和彦ピアノトリオ(17...30開場・球磨村石の交流館「やまなみ」)
 - ▽人吉労音クラシックの会例会「伊賀あゆみ&山口雅敏ピアノ・デュオコンサート」(午後7時、人吉カルチャーパレス)
 - ▽第22回人吉球磨書道連盟展(19日、人吉市イースミ本店地下イベントホール)
 - ▽6月19日(日) 第33回相良村民ビーチバレー大会(同総合体育館)
 - ▽6月24日(金) ころの健康相談(14~15時、人吉保健所)
 - ▽6月25日(土) 球磨人吉中体連大会(26日、各競技会場)
 - ▽6月26日(日) 田舎の交流館さんがうら「ブルーベリー狩りとジャム作り」(同交流館)
 - ▽6月30日(木) ひとよしくまこども劇場例会「グレゴの音楽一座」(山江村農村環境改善センター)
 - ▽7月10日(日) 「立ち上られ熊本!!・立ち上られ東日本!!」復興支援チャリティーショー(12時開場・あさぎり町須恵文化ホール)
 - ▽7月31日(日) 熊本震災チャリティーライブ(人吉市PRIMAVERA、103頁参照)
- ※災害などの影響により中止・延期になる場合があります。

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司
人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの
アイウェア
(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

次号予告

球磨川大好き!「源流水リレー 20 周年」

編集後記

球磨村は伝承の宝庫で、貴重な話が残っている。しかし、少子化・高齢化は著しく、肝心の伝承者が激減している。淋さんの「柴神さんの継承」を拝読し現実のきびしさを改めて知った。出生率が2.0を割ってから、すでに41年以上経つ。これほど長期間、出生率が低下しつづけている以上、人口減少は当然であるけれども、文化も失われかねないことを看過すべきでない。★「昭和の懐かしい写真館」にずいぶん時間をかけるようになってきた。半世紀以上前の写真のため、内容を簡単に理解できなくなってきた。変化の少ない世界で生活しているようにみえて、そうではなかった。「行商人」は分かりやすい例だ。どういう人たちが、どのような方法で、行商していたか。それを知っている人は少なくなった。「行商」を通じて文化も伝播したのだが、そのことも忘れられようとしている。今後は内容に踏み込んで解説したい。★震度5弱の揺れのなかで、この後記を書く。熊本地震、いまだ、終息せずである。

〒868-0086

熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3

「くまがわ春秋」編集部 office@hitoyoshi.co.jp
☎・FAX 0966-22-7601

山頭火の魅力の 秘密を解きながら 共に仏教を考える

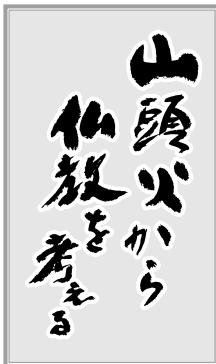
岐部明廣 著 絵／坂本福治



「人吉・球磨山頭火の会」会員でもある著者が、放浪の俳人・種田山頭火の生き様を熱く語った一冊。



■四六判／上製本／144頁
■定価 1,080 円(税込)
送料 200 円



直販の申込は 〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田 675-3 人吉中央出版社
TEL・FAX 0966-22-7601 info@hitoyoshi.co.jp